論　説

碁源——天授の盤上遊戯・人智競技（2）

夏　剛・夏　冰

前書

筆者は2016年6月～20年3月の本誌に，**囲碁・棋史に関する論文**として，「囲碁の“酷”と人智の“魔”——究極の頭脳競技の原理と中・韓・日・人工智能4強の特質・行方（1～3）」（29巻1～3号），「相克相生と栄枯盛衰——国際化・人工智能制覇時代の囲碁の変容と不易（1）」（30巻2号），「相克相生と深奥幽玄——囲碁・棋史の情理と妙趣（1～2）」（30・32巻4号），「碁源——天授の盤上遊戯・人智競技（1）」（31巻3号）を発表し，国立国会図書館デジタルコレクション等で電脳網上の公開も行っている。合計297頁・約35万字の**多角的な考察**は，**「碁源」「碁史」「棋士」「棋趣」を語る『囲碁縦横』**（仮題）**に組み込む**心算である。

本稿は「碁源——天授の盤上遊戯・人智競技（1）」の続篇の一部の抜萃で，掲載誌の厳格化した紙幅制限で既刊諸稿の様な詳説は物理的に難しい故，個々の論述の相当倍の分量が要る**史実・物語**や**文献・棋譜**を盛り込めず，**変則的な抄録の形で結論を急ぐ濃縮版**と為った。棋戦に譬えれば1手30秒の早碁に似た枠組みで収斂せざるを得ず，**碁史を織り成す夥しい人間劇の血と肉**の割愛には文字通り断腸の思いも有る。推論の過程や論拠乃至基本情報の提示を省略した論説は，些か唐突・独断的・不親切な印象を与えかねないが，諸賢の理解を願うと共に詳論版の完成・公表を追求して行きたい。

当初掲載予定の部分は新型冠状病毒禍に由る図書館休業で確認できない処が有り，**非常時期の応急措置**として（1続）の形で複数回の発表を後回しにする。（2）は既刊部分との内容・叙述上の断裂が生じるが，続く（3）等を含む部分は全体の論旨に沿って，**囲碁強盛国・地域や棋士の出身地の分布を手掛りに，東北亜細亜は天授の「囲碁強盛特区」であるという推論を展開し，漢字・儒教文化圏に根付いた囲碁の特質への究明を深める**。猶，参考文献は連載終了か単行本化の際に一括で明示する。

中国・日本の古今首都続出の「龍脈」と東亜細亜の超級富強「金三角」

社会派推理小説の巨匠松本清張（1909～92）は『東経139度線』（73）で，本州を約350キロ

図1　松本清張『東経139度線』所載地図，『松本清張全集56　東経139度線 短編5』（文藝春秋，1984年）より。

縦断した東経139度線一帯の北端の日本海岸と南端の太平洋岸に，僅か8分（1度の1/60に当る1分＝1.5キロ）の差で亀占の越後・弥彦神社（138度50分）と伊豆・白浜神社（同58分）が有り，その直線上に鹿占の上州・貫前神社（同51分），武州・御嶽神社（139度09分）と同・阿伎留神社（同13分）が並んでいる（図1），という**驚く可き均整な地理的分布の謎**を提起した。

歴史の発掘に長けた作者はこの異色の短篇で，該博な学識と奔放な想像力を駆使して大胆な仮説を立て，139の平安朝（794～1185）前の読み方（ヒイ，ミー，ココノツ）と邪馬台国の女王卑弥呼（3世紀半ば頃）との**暗合**から，関東の139度線に南北一列上に散在している鹿占・亀占の神事は邪馬台国の鬼道の名残だと結論付ける。**小説より奇なる現象の壮大・精緻**には瞠目させられるが，**古代史の暗号が隠れている霊妙な位置は天与の結果**と言えよう。

経線/度はグリニッジ子午線（経線）を基点として近代に作られた人工的な目盛で，英国・倫敦のグリニッジ天文台の子午環（1851年設置）が経度0度の基準と為り，84年10月13日に国際子午線会議（米国・華盛頓）で世界の本初子午線として採択された。16世紀も前の卑弥呼に当て嵌めるのは荒唐無稽・牽強付会と言えばそれまでであるが，卑弥呼を崇拝する邪馬台国の部落が**本能的に択んだ場所に天の啓示が有る**，という作中人物の推理も頷ける。

地球上の位置を表す座標の経度・緯度は，地図で縦と為る方は東・西各々180度に至り，赤道を0度とする横の方は南・北各々90度に至る。**縦横各19条の罫を引いて361の目を作った碁盤は，中央の線の四方の各9路が緯度の90を連想させ，真ん中の天元を除く360目が東・西経度の合計と符合する。四角を基地とする四方は四季，総目数は1年の365**（閏年は366）**日に近いが，碁盤の目は「地球村」の構図にも囲碁の時空両面の象徴性を現す。**

囲碁強盛広域の中国・朝鮮半島・日本では，**碁盤目状を呈す宮城都市の町並は歴史・文化の遺産**と為る。唐代（618～907）の首都**長安**（今の陝西省都西安市）**に見る祖形**は，**四方を**

君臨する支配欲と左右対称を好む美意識に基づく。平城京（奈良市，710～84）に続いて平安京（京都市，794～1868）も長安を模して造られたが，南北は9条に東西は朱雀大路を挟む左右両京を各4坊に分け，**碁盤に象る方格設計は整然たる市街区画の経・緯**を紡ぎ出している。

平安宮（平安京の大内裏［皇居］）の中で国家的行事や諸政が行われた大極殿は，北緯35°01’09”（秒は分の1/60）・東経135°44’32”に位置し，平城宮（平城京の大内裏）の同34°41’26”・135°47’39”とは，緯度39分33秒（1海里に等しい1分は1852メートル）・経度3分07秒しか離れていない。東京の皇居（35°40’57”・139°45’10”）は選りに選って，**平城宮→平安宮と略同じ緯度幅（39分48秒）**で**更に北上し**，**且つ神秘な東経139度**に在る。

「測量法実施令」（1949.9.1実施）が定めた**日本経緯度原点**は，経度が東経139度44分40秒5020，緯度が北緯35度39分17秒5148と為り，2001年の改正（同4.1）で分以下の数値が8859，1572と微修正された。所在の東京天文台も前身の海軍水路寮観象台も新首都構築の後（1888, 74）に出来たのであるが，明治（68.10.23改元）から**日本の中心地**は北緯35度・東経139度辺りに移り，**北緯35度線は遷都に由って帝・都縁の地帯**の様に思える。

奈良・京都と東京の皇居の経度の約4度（北緯35度線上の経度1≒91キロ）差は，本州を縦断した東経139度線と略同じ長さである。**西洋発の経・緯度の規定の前の落成**だから**本能的な選択に由る偶然の近似**でしかないが，**長安の大明宮（皇居）の北緯34°17’29”も平城宮と27分だけ違う**。東経108°57’34”の位置は**日本の3都と27度弱～31度弱もの懸隔**が有るので，**『東経139度線』の神社群より7～8倍も大きい規模の摩訶不思議**である。

平安京初期の右京（西半分）と左京（東半分）は中国の首都名に因んで，「長安城」と「洛陽城」の雅称が付けられ，鎌倉時代（1185～1333）に右京は衰微し左京は繁栄した為「洛（陽）」が異称と化した。洛陽は後漢（25～220）・晋（266～420）・北魏（398～557）・五代（907～60）の後唐（923～36）の都，隋（581～618）・唐の副都を為したが，**中心座標**（北緯34°39’・東経112°26’）**は見事に長安—奈良・京都・東京の枠内**に在る。

同じ河南省の開封は戦国時代（紀元前475～前221）の魏（前403～前225），五代の後梁（07～23）・後晋（36～46）・後漢（47～50）・後周（51～60）と宋（960～1276）・金（1115～1234）の都で，北緯34度台・東経114度台は**長安—洛陽の延長線上**に在る。**幅5経度強の広域中3都が北緯線上で横一列に並ぶ配置は日本の3都と直線で繋がり，時代・国境を越える「帝・都線」**（造語）は**人智で解けず人為に帰せぬ「神の手」の造化**を思わせる。

秦（中国史上初の中央集権国家）の首都咸陽も由緒有る「龍脈」（風水学で言う幸運招来の地帯）**に在り**新築（未完）の阿房宮（北緯34°15’30”・東経108°48’36”）と始皇帝陵の驪山陵（34°22’52”・109°15’13”）は後の長安大明宮に近い。東京都港区麻布2丁目18番地1に設置された日本経緯度原点に対し**中国の大地原点**は陝西涇陽県永楽鎮石際寺村内（34.533332，108.916667度）と為り**幾何学的中心の所在は咸陽で発祥し長安を中核とする同心円的な拡張を物語る**。

大地原点の制定（1978.12）は**改革･開放開始**の月と**中国初統一２200周年**の直前に当るが，**「第２の開国」後も秦と一脈相通ずる独裁**が続き，**地理関連の「帝国の表徴」**としてソ連でも設けた国内時差を許さず，**北京時間を５つの等時帯**（各15経度）**の統一標準時とする**事が有る。首都名を冠する標準時は**中国科学院国家授時**（**標準時発布**）**中心**が司るが，西安市臨潼区内の驪山頂上（北緯34°21′52″･東経109°12′48″）の**本部は始皇帝陵の至近距離**に在る。

国内外へ標準時を発信する授時台は1966年に陝西渭南市蒲城県興鎮に建設され，同県（北緯33°44′～35°10′・東経109°20′～54′）は大地の原点と同じく**国土の真ん中**に在る。日本では1923年の陸軍の測量に由り**東経135度・北緯35度の交点が国の中心**と認定され，兵庫県西脇市がこれを根拠に自任する**「日本の中心」は平城京・平安京の特性**にも算え得るが，**咸陽・長安は海を隔てた両古都と緯度だけでなく版図の中心の位置も通じる**。

中国最古の王朝の夏（前2070～前1600）は不詳や伝説を含む都が複数有り，唯一発見された中･後期の都の遺跡は河南洛陽市偃師翟鎮二里頭村（北緯34°41′53″･東経112°41′25″）に在る。**約２100㌔も離れた平城宮の北緯**（34°41′26″）**との極度の近似は驚異的な奇跡**で，**長岡京**（784～94）**の北上**（大極殿は34°56′35″・135°42′12″）**を経て平安京→東京に至っても，実在が確認されている中国最古の都の延長線から外れていない**。

夏に次ぐ商（殷，前1600～前1046）の後期の都である殷墟（今の河南安陽市）は，座標（北緯36°07′36″・東経114°18′50″）が中国・日本の上記８都の中心（皇居等）と合せれば，**咸陽―東京の２700㌔を超す広域に古・近代の首都集中地帯**（**北緯35°12′±１度**）が見て取れる。**長安の碁盤目状に倣って条坊制を布き長安・洛陽の名を都内西・東両側に冠した平安京は，中心がその緯度幅の中点と11分しかずれていない**から驚嘆を禁じ得ない。

殷の次の周（前1046～前256）は鎬京（今の西安附近）に都し，東西分裂の前770年に平王（?～前720，前770～前720在位）が成周（今の洛陽附近）に即位し，その歴史は**古都としての長安･洛陽の歴史の悠久と伝統の連綿**を示す。**動乱が多い中国では王朝交代や遷都に由り京都の様な連続千年超**（**１074年**）**の古都は無い**が，1959年に発見された二頭村遺跡は約３500～３800年前の物と推定され，**証明済みの中国最古の都の存在は世界史でも比類が無い**。

上古伝説の５帝中の舜は蒲阪（今の山西省永済市［北緯34°54′35″・東経110°30′16″］蒲阪鎮）に都を築き，その禅譲で夏の始祖と為った禹の都は陽城（今の河南登封市［34°27′・113°01′］告成鎮）と言われる。確証が無く今や別々の１級行政区（日本の都道府県に当る省･自治区･中央直轄市･特別行政区）に属するのに，恰も**「初めに北緯34～35度台に在りき」**の様な位置は些か出来過ぎた感じもするが，**虚実を交えた13都の横並びは奇観・奇譚**として有る。

『聖書･ヨハネの福音書』の**「初めに言有りき」**の漢訳**「太初有道」**（太初に道有りき）は，**「道」の「道う」「道」の両義で言語の先導的な役割**を表す。**「初・道」**から連想する**日本国道路原標**は東京中央区日本橋（北緯35°41′03″・139°46′28″）に設置され（1873），中国では北京

の正陽門（39°41'57"・116°23'30"）前に「**中国公路零公里**」（**中国国道零キロ**）の標識が樹てられた（2006.9.24）が，**大地原点は日本国道路原標と北緯35度線を挟んで対を為す**。

『東経139度線』の中の弥彦神社（新潟県西蒲原郡）と白浜神社（静岡県下田市）は2 400年，貫前神社（群馬県富岡市）は1 400年の歴史を持ち，御嶽神社（東京都青梅市）は崇神天皇（記紀伝承上の天皇）の時代に創建され，阿伎留神社（東京都あきる野五日市）は創建年代不詳と称される。他県の神社でも有る太占の神事は邪馬台国東遷説を唱えた作者に巧く利用されたが，**千年もの間に各々同じ経線の上に現れた史実は傑作を成す天与の素材**と言える。

4千年近くの内に中国最古の王朝の都から現代日本の首都まで，北緯35度線辺りに断続的に幾つも都城が建設された事は，松本清張の長篇（1981）の題を借りて言えば「**十万分の一の偶然**」かも知れないが，**時間・空間が甚だ懸け離れた再三の発生は合理性も有りそう**である。首都の立地は**政治・経済・軍事・文化等の見地**から慎重に決定されるものであるだけに，**北緯35度線一帯に好条件の場所が数多く有った**と解釈できよう。

前出の**中国の古都が北緯34〜35度・東経108〜114度辺りに集中する**のは，**古代の世界4大文明の内の黄河流域に位置する**事が大きい。**国家の成熟度と首都の文明開化度が正比例・相互作用の関係**に在り，**自然の快適や環境の利便，社会の繁栄は首都の条件**と為って然る当きである。古〜近代日本の場合は**国の中心地に理想的な条件が揃った**事，現代の場合は**世界に直通する沿海地域に在る**事が**選ばれた必然性**として考えられる。

葡萄酒用葡萄の栽培は北/南緯30〜50度の地域が適し，日本の名産地の山梨県甲府市も枠内に位置し，北緯35°40'は日本経緯度原点と日本国道路原標の同39'・41'の間に在る。経度（138°34'）は『東経139度線』中の弥彦・貫前・白浜3神社と16・17・24分差で，緯度は弥彦・貫前（37°42'・36°15'）と白浜（34°41'）の間の御嶽・阿伎留2神社（35°45'・同43'）と近接し，北・南端2社の3緯度差の中点（36°13'）に貫前神社が在るのも**対称の妙**が有る。

北緯35度辺りが広大な時空に於いて両主要国の首都量産地と為った事は，**経/緯度や国に関らず世界史上の唯一**である。緯度30度未満地域の葡萄酒用葡萄栽培の**不適合**と通じて，南宋（1127〜1276）の都臨安（今の浙江省都杭州市，北緯30°15'・東経120°10'）は，金の侵入に由る北宋崩壊で**全土支配が出来なくなった政権の雌伏の地**である。武漢市（30°35'・114°19'）と重慶市（今は中央直轄，29°33'・106°30'）も，抗日戦争（1937〜45）中の**臨時首都**に過ぎない。

北宋の首都開封陥落の翌年に最後の皇帝欽宗（1100〜61，26〜27在位）が金の虜にされ，弟趙構（1107〜87）が南宋の初代皇帝（高宗，27〜62在位）と成った。南京（今の河南商丘市，北緯34°24'・東経115°39'）で即位した後，各地の移動の末32年に首都を臨安に定めた。商丘は周〜戦国時代の宋（前11世紀〜前286）の国都で**巡り合せ**を感じさせるが，**中国統一前の群雄割拠の時代でも咸陽・商丘の様に北緯35度線辺りに王都が多かった**。

南宋の臨時首都（1129）建安は今の江蘇省都南京（北緯32°03'，東経118°46'）で，同市の都

城の歴史は三国時代（220～80）の呉（21～80）の武昌からの遷都（29）に始まった。三国の魏（220～65）に代り同じ洛陽を都とした晋（66年樹立）は316年に滅ぼされ，西晋を再興する東晋は翌年に建康で発足し420年に滅亡した。呉・東晋と宋・斉・梁・陳（420～79，～502，～57，～89）から為る六朝の都は309年続いたが，**最長104年，平均62年弱と長くない**。

南京は明（1368～1644）初に全国の首都と為り，53年後（1421）北京に遷都した。中華民国誕生の時（1912.1.1）臨時政府は南京に置かれ，北京政府の成立（3.10）で首都は清を踏襲した。1927年に国民党（19.10.10創建）主導の国民政府が南京で成立した（4.18）が，現代史上の首都と為る地位は日本軍占領下（37.12.13～45.8.15）を含めても，中共軍攻略（49.4.23）まで22年しか無く，**「南京王朝 / 政権は短命」の「魔呪」（不吉な因縁）**を印象付けた。

北京は遼（916～1125）・金・元（1271～1368）・明・清（1644～1911）に続いて，中華人民共和国の首都に定められ**長持の霊験**が有る。天安門広場の南端に在る中国公路零公里（道路原標）は，上記の杭州の**中心座標**と同じ**「城市（都市）原点」**にも為るが，少し北寄りの天安門辺りの中心座標の北緯（39°54′20″）は，**中国の「王都地帯」の北緯35・40度線の「一国両帯」**（「一国両制［度］」に擬えた造語）を示す。

日本・中国の道路原標・公路零公里から思い泛ぶ**「全ての道は羅馬に通ずる」**は，羅馬帝国（前27～395）の全盛期に世界中の道が其処に通じていた事から来た。1871年に統一伊太利の首都と為った**羅馬**の北緯（41°53′）は，**北京**と土耳古の**アンカラ**（39°53′）より2度高く，米国の**華盛頓**（38°53′）より3度高い。西班牙・葡萄牙の**馬徳里・里斯本**（40°20′，38°42′）や北朝鮮の**平壌**（39°01′）と共に，**北緯40度線近辺の重要な国の首都の連環**を為す。

北京が首都に選ばれた要因には同盟国のソ連に近いという**国防上の利点**が有るが，皮肉にも両国の決裂（1959）と国境に於ける武力衝突（69）で**裏目に出た**。沿海工業都市の天津（直轄市，北緯39°10′・東経117°10′）に近いのも有益であるが，天津附近の工業都市の**河北省唐山市**豊南区（39°36′・118°12′）で起きた**大地震**（1976.7.28，M 7.8）は，**20世紀の世界最多の死者**（24.2万）を出し首都も文字通り激甚に震撼された。

人類史上の地震死者最多記録（83万人以上）は**中国の多難の宿命**を物語る様に，**陝西華県**（北緯34°24′・東経109°49′）**大地震**（1556.1.23，M8以上）である。4世紀後に出来た**全国標準時基点・大地原点との距離が50・75㌔，緯度差が3・8分**だけなのは，**面積が中国の1/25.4に過ぎない日本に当て嵌れば2・3㌔の至近距離**と為る。**中国の首都続出の北緯35・40度線は地震多発の危険地帯**であり，**日本の首都も同じ「禍福は糾える縄の如し」**である。

日本の20世紀最多の地震犠牲者（10.5万人余）を出したのは**関東大震災**（1923.9.1，M7.9）で，震源地（北緯35.2°・東経139.3°［諸説有り］）は皇居の西南**63㌔**に在る。**阪神・淡路大震災**（1995.1.17，M7.3）の震源地（淡路島北部，34°36′・135°02′）は，日本の中心とされた北緯35度・東経135度の交点の南**44㌔**に在る。両国の歴代の多くの首都が北緯35度線一帯に分布し

て来た事と合せて，**所謂「一衣帯水の隣邦」の地縁・「（歴）史縁」の遍在**を思わせる。

二十四史（中国歴代の正史）中の『陳書』が出典と為る「一衣帯水」は，一筋の帯の様な狭い川・海を指し，狭い川や海峡を隔てて近接している事に言う。日中国交正常化（中国側の名称は「中日恢復邦交［国交回復］」）の為の首脳交渉（1972.9.25～30）で，「一衣帯水の間に在る隣国」は共通認識と為り共同声明にも記された。海峡を隔てた日本と朝鮮半島の間なら適用するこの形容は，**浩瀚な東支那海**（中国では「東海」）**を隔てた日中間**の場合は**誇大表現**である。

田中角栄首相（1918～93, 72～74 在任）は訪中の初日に周恩来総理（1898～1976, 49～76 在任）主催招宴で，空路直行で日中が一衣帯水の間に在る事を改めて痛感したと挨拶した。全斗煥韓国大統領（1931～　，80～88 在任）は初訪日の出発・到着声明（84.9.6）で，両国で互いに言う**「近くて遠い」**関係を確認し，2 時間弱の飛行で日本の土を踏んだ事は近さを実感させると述べたが，**日中間の海の幅は日韓間の海峡の 4 倍も有る**から**近いとは言えない**。

「一衣帯水」は南北朝時代（420～589）の北朝・隋の文帝（541～604, 81～04 在位）の言葉で，彼は南朝・陳の後主（553～604, 82～89 在位）の悪政に苛立ち，対岸へ攻め入って民衆を荒廃・困窮から救おうと考え，双方を遮っている長江は 1 本の帯の様に細く自分の決意を阻めないと啖呵を切った。実際の**侵攻・占領を導いた豪語は殺気を帯び不穏な内容**であるが，隋に始まった中日国交で **14 世紀後に親密な関係の形容**に使われるとは愉快である。

中国の東海岸と日本の南西諸島の間の海は北が長江河口から台湾海峡に至るが，中国で内海とされる同海峡の両岸も 1949 年から対立を続けて来た。双方の**地理的な断絶**を示す様に**中国の 2 800 年以来の特大地震は台湾では 1 回しか無い**が，その例外（1920.6.5, M8）の震源地（大港口以東沖合，北緯 23°30'・東経 122°）は，**遼寧省海城県**（40°50'・122°43'）**地震**（75.2.4, M7.3）**と，約 2 千キロも離れているのに経度の差が 0.7 度**だけである。

『東経 139 度線』の 5 神社の座標の最大差（経度 3 度，緯度 0.4 度）と比べて，経度差を考慮した緯度の近接率が 3.1 倍も高い。危険地帯の北緯 40 度線辺りに起きた海城地震は，事前の警報で人的な被害が軽微で済んだ稀有の予知成功例として知られるが，**55 年を隔てた 2 回の歴史的な激震の経度の僅差**は，**中国の東経 119 ± 3 度区域の地震危険性の高さ**を裏付け，更に**人間の意志や能力を超えた自然の神秘・摂理**を暗示する。

社会・歴史の事象や法則を示す中国地図上の直線区分の好例として**「黒河―騰衝線」**が有り，東北の端の黒龍江省黒河市（1983 年までは璦琿県，北緯 50°14'・東経 127°31'）と西南部国境の雲南省騰衝市（25°20'・98°40'）を結ぶ約 3 800 キロの直線は，中国に於ける**人文地理学・自然地理学**を創設した地理学者胡煥庸（1901～98）が 35 年に提起し，**人口分布の極端な偏りを表す境界線**として**世紀の大発見**であり**不滅の意義**を持つ。

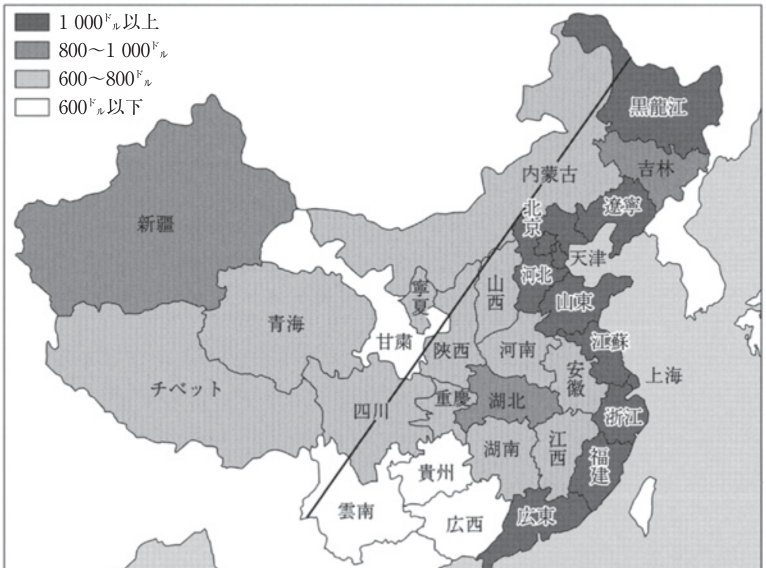
1933 年の数値に基づいた当初の「璦琿―騰衝線」の東 / 西部は，面積が国土の約 36％対約 64％（約 400 万 / 約 700 万平方キロ），人口が約 96％対約 4％（約 4 億 / 約 1 800 万）であった。

1982 年の数値に拠る 87 年の再定義は，外蒙古（24 年に蒙古人民共和国として独立したが，統計では国内と見做された）の除外と台湾（前回は日本領扱い）の追加で，**東 / 西部の面積比**は 960 万平方キロ中の **42.9%対 57.1%**，**人口比**は約 10 億 3 千万人中の **94.4%対 5.6%**と為った。

黒河―騰衝線は東北～西南に延伸した**万里の長城の方向と重なる**処が有り，**民生・軍事上の重要な年間降水量 15 吋（381 粍）分布線との相関**も感じられる。**住み良い地域と住み難い地域の境界は経済発展の障壁**と為り，2002 年の再調査で得た同じ結果は政府奨励の西部への移住の不発を意味する。2000 年に西部大開発の国家戦略と推進体制が立ち上げられたが，**構造的な「東高西低」の常態は百年や千年を掛けても変らない**はずである。

当局が国内・域外と規定した台湾省と香港・澳門特別行政区を除く本土では，2001 年の 1 級行政区の 1 人当り域内総生産の水準を黒河―騰衝線と照らす（図 2）と，1 000ドル超の 11 省・直轄市は**東端に集中**し（北から黒龍江・遼寧・河北・北京・天津・山東・江蘇・上海・浙江・福建・広東），800～1 000ドルの 4 地域中吉林・湖北・海南省も東側に在り，**東側**は最も低い

図 2　黒河―騰衝線と中国本土(除く台湾・香港・澳門)各省・自治区・中央直轄市の 2001 年 1 人当域内総生産水準



出処＝夏剛「“東アジア共同体”構築の隘路と進路――中国の政治文化と日本の企業文化を手掛りに」（西口清勝・夏剛編著『東アジア共同体の構築』［ミネルヴァ書房，2006］第 7 章）。財団法人環日本海経済研究所『北東アジア経済白書 2003』（新潟日報事業社，03）所載「全国 31 省・市・自治区の 1 人当り GDP（2001 年）」図（中国国家統計局『中国統計年鑑 2002』［中国統計出版社，02］に拠り作成）を用いて，夏剛が黒河―騰衝線を加え，本稿で表記を微修正した。

600ドル以下の貴州·雲南省と広西壮(チワン)族自治区が有るものの，**西側を上回る優位は歴然**である。

黒河—騰衝線の西側には最上位地域は黒龍江の一部しか無く，唯一の800〜1 000ドル組の新疆(きょう)維吾爾(ウイグル)族自治区も黒龍江と同じく産油地に負(お)う処が大きい。大地原点・全国標準時基点が在る国土の真ん中の陝西は大半が東側の内であるが，古都続出の河南と共に600〜800ドル地域に属する。**黄河流域**は**古代文明の衰退(たい)**を反映して黄海に接する山東を除いて第1・2群(グループ)に入らず，**草原・高原や砂漠等の不毛地帯が多い西側には前出の古都は皆(かい)無**である。

盛唐（713〜65）の「詩仏」王維（701頃〜61）の名作に,「渭城長雨浥軽塵,客舎青青柳色新。勧君更尽一杯酒，西出陽関無故人。」（渭(い)城の長雨軽塵(けいじん)を浥(うるお)し，客舎青青柳(りゅう)色新(あら)たなり。君(きみ)に勧(すす)む更に尽(つく)せ一杯の酒，西のかた陽関を出(い)ずれば故人無からん）と有る。安西（今の新疆吐魯蕃(とろはん)市に在る交河故城，北緯42°57'・東経89°03'）へ赴(ふ)任する友人を送(おく)る為の詩に，**黒河—騰衝線の両側の渭城（咸陽）と陽関**（今の甘粛(かんしゅく)省**玉門関**市，40°21'・93°51'）の**距離・環境の懸隔**が出る。

同時代の詩人王之渙(しかん)（688〜742）の「春風不度玉門関」（春風度(わた)らず玉門関）の通り，敦煌(とんこう)（西域との交通の要衝）の西70キロの同地は砂漠(さばく)の端に在る。「瑷琿—騰衝線」説発表の年に中共中央・中央赤軍が長征（1934.10.10〜35.10.19）を経て，華東の江西省瑞(ずい)金県（北緯25°52'・東経116°01'）から陝西保安県呉起鎮（37°・108°03'）に辿(たど)り着き，**陝西と同線西側の甘粛・寧夏**（建国後は回族自治区）を**根拠地**にしたが，**甘粛の貧困は2/3世紀後も旧態依然**であった。

21世紀及(およ)び西暦紀年に由る3番目の千年紀(ミレニアム)の初頭の甘粛の1人当り域内総生産(GDP)は，生誕1 300年に当る王維が詠(よ)んだ**陽関以西の荒涼の名残の様に全国最低級(クラス)**に在った。共産党は第2次国共合作（1937.9〜46.6）で国民党政権から陝甘寧辺区政府が委(ゆだ)ねられたが，暫(しば)し「特区」の称も有った**「辺区」（周辺区域）の辺鄙(ぴ)・落後は中共治下でも抜本的に改善されず**，3地域の中で甘粛は共に内蒙古自治区と接壌(じょう)する陝西・寧夏よりも一段と劣(おと)った。

2001年本土**1級行政区の1人当り域内総生産(GDP)の最大格差**は上海（直轄市）対貴州の12.9倍で，**東京都対沖縄県の平均所得の2.05倍より貧富の格差が6.3倍大きい。2〜3級行政区**（地区・盟(めい)・自治州・地区級市/県・旗・県級市・市轄区・林区・特区等）に至っては，中国屈指(くっし)の金融中心(ゆうセンター)・国際都市の広東深圳(せん)市が最高で，**日本で想像も付かない171倍の差**（2002）が付く**最低の礼県**（北緯34°03'·東経105°06'）は，甘粛の略(ほぼ)全部を占める**黒河—騰衝線の西側**に在る。

同時期の東**亜細亜(アジア)に於ける最富国の日本国と最貧組の緬甸(ミャンマー)・柬埔寨(カンボジア)・老檛(ラオス)の100〜200倍の差**も，**海に囲(かこ)まれた日本と内陸に閉(と)じ籠(こも)る老檛(ラオス)の対極**と共に，**経度がこの東南亜3カ国と重なる内陸地域の甘粛・貴州・雲南の低水準と二重写し**に為る。経済地理学的な発想で**黒河—騰衝線の様な格差区分を東亜細亜(アジア)に当て嵌める**と，**中国の地域間と似た「第1/2/3世界」（発達/中間/発展途上国・地域）**が浮かび上がる。

日本の高度成長は戦前以来の**「亜細亜(アジア)雁行型発展」の波及・拡大を引っ張る「昇龍」**の勢(いきお)いで，**東亜の「4小龍」**（4頭の小さな龍＝韓国・台湾・香港・新嘉坡(シンガポール)）**→「4小虎」**（インド

ネシア・泰・馬来西亜・比律賓［同じ域内総生産総額順］）**→「巨龍」中国の勃興**を促した。**東京五輪**（1964.10.10〜24）**→漢城五輪**（88.9.17〜10.2）**→北京五輪**（2008.8.8〜24）**の順次開催**は，**「東亜の奇跡」の成果**を顕示し**囲碁国際化時代の世界最強国の変遷の軌跡**とも合う。

改革・開放を推進した1980年代の最高実力者（党中央軍事委員会主席）鄧小平（1904〜97）は，「先富」（富裕に成れる個人・地域は先に富裕に成れ）と号令を掛け牽引役の働きを期待した。**現代東亜の「先富・首富」は**第1次世界大戦（1914.7.28〜18.11.11）**後に世界5大国に伍し，68〜2010年に世界第2位の経済大国であり続けた日本**に他ならず，**「昇龍＋4小龍」の5強は「先富」国・地域**として**東亜の「第1世界」**を為した。

20世紀の亜細亜に於ける夏季五輪開催地の東京と首爾(2005年漢字表記変更)を結ぶ直線に，東北亜に在る2首都と「4小龍」中唯一東南亜に在る新嘉坡を結ぶ直線が加わると，極東の東北から西南に伸びる狭長の鋭角が現れる。日本の半分，韓国の大半，首府台北を含む台湾の半分と香港は恰度その中に収まり，中国の上海—香港/澳門・広州間の線の東側に在る東南沿海地域も入るから，**東亜「先富」群の「(黄) 金 (の) 三角」**と名付けられよう。

東京—新嘉坡線と角度が似通う黒河—騰衝線の東亜細亜版として，蒙古・西比利亜と共に北亜細亜を為す極東露西亜の主要都市ハバロフスクから，哈爾濱（黒龍江省都）—北京—太原（山西省都）—西安—成都（四川省都）—ネピドー（緬甸の首都）に至る直線が思い当る。反対側に平行の角度で馬尼剌（比律賓の首都）—加拉巴（インドネシアの首都）の直線を引くと，その以東とハバロフスク—ネピドー線の以西は**先進/中進に次ぐ後進区域**と為る。

経済面の境目と交差する複合座標を織り成す様に，東亜の**地理政治学的な重心地域の基軸**が2つ有る。東北の方は北緯35〜40度線間の扁平状の区域に，日本と朝鮮半島両国・中国の首都が横に並ぶ。東南の方は赤道を挟む細い弧状の地帯に，「小虎」新嘉坡と「4小虎」中の経済規模上位3ヵ国の首都が集中する。（図3）両者の3〜5千㌔超の距離も東—西と南—北の方向も東北・東南亜の隔たりを示すが，**東北亜の政治・経済・軍事の優位が大きい**。

日本・韓国・中国の首都の五輪主催は等距離・一直線に近い形で北上し，東京→漢城（北緯37°34'・東経126°59'）**→北京の間隔は緯度2度13分→2度20分，経度12度46分→10度36分の昇・降**と為る。**ハバロフスク**（48°29'・135°04'）**—ネピドー**（19°45'・96°06'）**線**は，**起点の経度は「日本の中心」の真北**に在り（緯度差13.5度），**到達点は2006年に仰光**（16°48'・96°09'）**に代った首都**であるが，**大幅な北上でその線上に至った位置は奇妙**である。

仰光→ネピドー遷都の緯度29度7分差・経度3分差は**意図的な均整**かも知れないが，『東経139度』中5神社の緯度・経度の僅差（最大で3度1分・23分）並みに**神秘的**である。**深圳**（北緯22°33'・東経114°06'）は南に香港（22°16'・114°11'）の新界に接し（中心部距離35㌔），西南に70㌔離れている澳門（22°10'・113°33'）と共に**「金三角」の西端**に当るから，**全国初代経済特区**の設立（1979）時の**場所選び**は実に**慧眼が利いていた**。

図3　東亜細亜の経済発達度の「3つの世界」と政治「2強極」の概念図

図2と同じ夏剛論文所載の同題地図（夏剛作成）に，本稿筆者は都市の追加と表記等の修正を施した。

黒河―騰衝線の両端の巨大な格差を裏付ける様に，1968年頃の大学卒業生の就職勤務地の希望に関する戯言は，「天南海北我都去，就是不去新西蘭」（字面の意味は「如何なる遠隔地にも行くが，新西蘭だけは行かない」，真意は「**天**津・**南**京・上**海**・**北**京なら行くが，**新**疆・**西**藏・**蘭**州［甘粛省都］は御免だ」）と言う。遥かに遠い距離や遠く離れた異なる場所を表す四字熟語に因んだ**4大都市**は，今や熟語化した「**北**（京）**上**（海）**広**（州）**深**（圳）」に取って代えてある。

全国最北端～大陸最南端の緯度差33度強（黒龍江漠河市の北緯53°33'～広東雷州半島南端の東経20°12'）の最東部に，東北3省中の吉林（省都＝長春市［43°53'・125°19']）を除く8省・2直轄市は，2001年1人当り域内総生産の**最上位陣**を為し**沿海地域総「先富」**を思わせた。「表/裏日本」（本州の太平洋/日本海に臨む一帯の地）に擬えて，**「表/裏中国」**の区分も出来よう。**近代化の進展度も基準**と為る「表/裏」は，差別的な語感を否めないが**中国の実情**に適用する。

北宋の文学者・政治家范仲淹（989～1052）は杭州（今の杭州市一帯）知府（長官）在任中，周りの多くの部下を推薦・抜擢した。遠い県の巡検（軍事訓練を司る中級官吏）蘇麟（生歿年不詳）は彼への表敬訪問で，「近水楼台先得月，向陽花木易為春」（水に近き楼台は先ず月を得，陽に向える花木は春を為し易し）という詩を献上し，恩恵に与りたい思惑が実った。ある人や物事への接近で逸早く利益を得る優位に立つ意の名句は，**「表中国」の「先富」の要因**をも表せる。

東北の黒龍江（省都哈爾濱［北緯45°45'・東経126°39']）・遼寧（省都瀋陽［41°47'・123°26']），華北の河北（省都石家荘［38°02'・114°30']）・北京・天津，華東の山東（省都済南［36°40'・117°]）・江蘇（省都南京）・上海（31°10'・121°29'）・浙江（省都杭州［30°16'・120°12']）・福建（省都福州［26°04'・119°18']），華南の広東（省都広州［23°07'・113°15']）は，黒龍江・北京を除いて全て**海**（渤海/黄海/東［支那］海/台湾海峡/南［支那］海）**に面した「近水」地域**である。

大陸両端の北緯の中点（37度）に省都が在る山東は，膠東半島の北・南側が其々黄海・東海に接し，尖端部が東部沿海地域の中で上海よりも東に突出し（東経122度台），亜細亜の中で最も国際日付変更線（東・西経180度，一部曲折有り）に近い日本と似て，当該広域で日の出を最初に迎える意味で**「向陽」の性格**も強い。**緯度が略同じの加州**や**烏克蘭**（48度辺り）と並ぶ世界3大野菜・果物産地を為すのも，一重に**「向陽」の長い日照時間の賜物**である。

初代経済特区は深圳と共に澳門に隣接する珠海市（北緯22°16・東経113°34'），同省の汕頭市（23°22'・116°42'），福建の厦門市（24°26'・118°04'）も有り，何れも**「近水」（沿海）・「向陽」（香港・澳門に接するか，華僑**［海外に定住する中国人］・**華人**［移住先の国籍を有する中国系］**の援助を得易い）の利点**を持つ。翌年に経済特区と為った広東の海南島（1988年省に昇格，中心都市の海口は20°02'・110°20'）は，外資導入の差も有り4地と違って東亜「金三角」に入っていない。

広東と海南の格差は2001年1人当り域内総生産の**第1/2走者集団**所属に現れたが，広東と広西（首府南寧［北緯22°49'・東経108°19']）は最上/下位組が隣り合う唯一の例と為る。黒河―騰衝線の北端の最上位級と対照的に雲南（省都昆明［25°04'・102°41']）は最下位級で，**最**

も多い少数民族が居住する同省は人口最多の少数民族自治区の広西と同じ宿命を持つが，南の広西・雲南と地続きする貴州（省都貴陽［24°35'・106°43']）も**地の利に恵まれない**。

貴州は「天無三日晴，地無三尺平，人無三分銀」（天は3日と晴れる事無く，地は3尺と平らな処無く，人は3分の銀も持つ例が無い）と言われ，陰湿で山地が多く貧困に陥り易い環境は悩みの種である。雲貴高原の2省と同列の甘粛は黒河―騰衝線の西の寧夏（首府銀川市［北緯38°47'・東経106°32']），東の陝西・山西（省都太原市［37°52'・112°33']），両側に跨る内蒙古（首府呼和浩特市［40°49'・111°39']）と共に，土壌流失・黄砂多発が酷い黄土高原の害を蒙る。

青海省（省都西寧［北緯36°37'・東経101°46']）と西藏自治区（首府拉薩［29°39'・91°07']）も，3大高原中の最大（国土の23%）・最高（海抜3 500㍍超，平均4 500㍍）の青藏高原に在り，**空気が稀薄で少数民族の問題も厄介な土地**である。胡錦涛（1942～　）は貴州・西藏の首長（85～88，～92）を歴任した後，最高指導部（中共中央政治局常務委員会）入り（92）を果し次期党首（2002～12）と内定されたが，2回も**最悪の貧乏籤に関らず重責を全うした事が報われた**。

大学卒業生が「新（疆）西（藏）蘭（州）」への配属を嫌がる1968年，胡錦涛は北京の清華大学（理工科の最高学府）から甘粛に行かされ，蘭州の南の水力発電所の建設に従事した。彼の党総書記・国家主席在任中の総理温家宝（同年齢）も，北京地質学院の修士課程を終えた後に甘粛省地質局に着任した。**「吃得苦中苦，方為人上人」（苦中の苦を味わって，始めて人の上に立てる）**という格言の通り，2人とも**10数年の地味な勤務**を経て首都に戻り要職に就いた。

胡錦涛に次いで党・国・軍3権を総攬する習近平（1953～　）は北京の名門中学を卒業後，69年に陝西延安市延川県（北緯36°51'・東経110°01'）へ下放（移住）させられた。**首都との雲泥の差**に愕然とした余り脱走し北京で不法滞在者として労役を科されたが，半年後に復帰し**我慢の末**1975年に推薦で清華大学に入った。卒業後は国務院（内閣）・中央軍委辦公庁（事務局）に勤務したが，**政界進出に必要な資質は黄土高原で受難中に培った処が多い**。

習近平の地方勤務は1982～85年の河北正定県党委員会副書記→書記（行政首長より上のNo.1）が最初で，同県（北緯38°12'・東経114°33'）は省都（緯・経度10・3分降）に隣接し全国で中の上に当る。**正定―石家荘**の延長線上に経度が全く同じの**開封**（34°36'・114°33'），東経114°台の**武漢**（30°35'・114°19'）・**深圳**（22°33'・114°06'）・**香港**（22°16'・114°11'）が在るが，**緯度16度差の区間に歴史の由緒と因縁が有る都市が4つも縦並びする**とは驚嘆に値する。

中国の古都は北緯34～35度・東経108～114度一帯に集中し開封は東端に位置するが，1937～47年の中共中央所在地の**延安**（35°21'～37°31'・107°41'～110°31'）は**西端**に在る。建国で「赤い帝」と成った党首・軍統帥毛沢東（1893～1976）は，党副主席（5人中1位）・国家主席劉少奇（1898～1969）を粛清し，2年余りの軟禁の末「対ソ戦備緊急疎開」の名目で**開封**に強制移転させ，銀行の金庫棟での禁錮中に虐待死させ**古来の宮廷内争の惨劇を再演**した。

「文化大革命」（1966～76）中2度失脚した**鄧小平は不死鳥の怪力で復活**し，「伯林の壁」

崩壊の日（89.11.9）の引退後も新指導部への鞭撻を続け，**最後の闘争と為る南方視察**（92.1.18～2.21）で改革・開放を再点火した。北京から武漢に直行して駅の歩廊で湖北の指導者に訓示を垂らし，次に深圳・珠海・上海を廻って「南巡講話」で停滞を打破したが，**第1・2の視察地の中心座標は緯度差8度2分・経度差13分と南北垂直の線上で重なる。**

習近平は党首就任（2012.11.15）後の初地方視察（12.7～8）で深圳に赴き，鄧小平の彫像に献花し路線継承の姿勢を表したが，**30年前の初地方勤務先との緯･経度差の15度39分･27分は妙な巡り合せ**である。**深圳の特区化に地の利で要因と為る香港**は鄧の歿（1997.2.19）後に英国から返還された（7.1）が，2019年に習政権の威信を揺さぶる大規模の民衆示威が頻発し，**同じ東経114度線上の乱**として同年**武漢発の新型冠状病毒が世界で恐慌を起した。**

鄧小平が唱えた**「一国両制（度）」**（政治上は統一された国家と為り，経済・社会体制上は社会主義・資本主義制度の共存を認める政策）は，50年不変の保証で返還後の香港・澳門に適用されながら形骸化の趨勢が顕著に現れて来た。返還20周年の日に第4代行政長官と成った林鄭月娥（1957～　）は6月15日，6日前の百万人示威が要求した「逃亡犯条例改正案」撤回を拒み事態を激化させ，**当日66歳に為った習近平**は彼女の**誤算・失敗**で**打撃**を受けた。

習近平の**人生の一大転機は32歳の誕生日に厦門の副市長に就任した事**で，初代経済特区の同市も東南沿海の福建省も河北・正定が比べ物に為らない**「1等地」**である。曾て王兆国（1941～　）が党中央辦公庁主任（事務総長）の要職から左遷される時,「比較的良い地域へ」と言う陳雲（1905～95，鄧小平と並ぶ長老）の配慮に由り，87年に福建省長に任命され3年後に首都で復権したが，習の福建在勤（85～2002，最終職務は省長）も優遇された節が有ろう。

浙江に接する寧徳地区（行政中心地は寧徳市［北緯26°40'・東経119°31']）の党委書記（1988～90）は，福建時代の唯一の**非先進地域**配属と為り，次の福州市委書記から全て省都に居た。更に浙江省委副書記・省長代理→省委書記（2002～07）→上海市委書記（07）を経て，政治局常務委員・国家副主席・軍委副主席と順次に成った（07・08・10）が，**中央入り・首領当選への助走が東亜「金三角」内の3地域で為せた**経歴は,**「特待生」大躍進**の観も無くはない。

鄧小平・胡錦涛時代の間の指導者江沢民（1926～　）も上海市長→市委書記から特進し，後任の朱鎔基（1928～　）も同じ2職から副総理→総理（93～98，～2008）へと栄転した。1989年以来の党首3人中2人，総理4人中1人の最終地方勤務地として，**上海の首長は政・官界登頂の確率が高い「特等席」**と言って過言ではない。**中国最大の国際都市・「商都」の地位・実力**にも相応しいし，**中共誕生の地**でもあるから**党史上の因縁**も感じられる。

習近平は党首再選（2017.10.25）の6日後に政治局常委全員を率いて,上海と浙江嘉興市（北緯30°42'・東経120°47'）で第1回党大会会場址を拝観し,「不忘初心」（初心を忘れず）教育は**自身の足跡**の展示とも成った。福建龍岩市上杭県（25°07'・116°36'）古田村で開かれた全軍政治工作会議（2014.11.1～2）も，赤軍第4軍第9回党大会（1929.12.28～29）の場所で毛沢東に

肖(あやか)る意図が有ったが，**福建が古巣(ふるす)**だから出来た異例の僻(へき)地開催である。

鄧小平は「南巡」で上海浦(ほ)東新区の構想を打ち出し，同年の設立後に**東亜「金三角」と吻(ふん)合する上海—深圳線**が出来た。**深圳と線上の杭州に本社を置く**騰訊(テンセント)と阿里巴巴集団(アリババグループ)（1998・99年創業）は**情報技術(IT)企業の両雄**で，共に2017年から世界企業の時価総額10傑(ベスト・テン)入りを果した。中共結成時の会場は当局の摘(てき)発を避ける当(べ)く途中で**上海・杭州間の嘉興**に移ったが，**両地の延長線上の杭州・深圳は諸代表の夢も及ばぬ程(ほど)2回の開国で高成長が大化(おおば)け**した。

東端の中部の境界にその線が**有る東亜「金三角」は，中国本土の上海市，浙江・福建・広東3省の各一部**と香港特別行政区を含め，福建と向き合う**台湾は大陸寄りの片(かた)方**が入る。北には**沖縄を除く日本の南半分と韓国の略(ほぼ)全域**が収まり，南には越南(ベトナム)の東南部沿海地域の極(ごく)一部と新嘉坡(シンガポール)が圏内に在る。東経139度線上の5神社分布や碁盤目状の都城構図から始めた論考は此処(ここ)で，**東亜「金三角」は囲碁強盛国・地域圏でもある**という発見に至る。

中国碁傑輩(はい)出の東端「先富」区域と長江流域「黄金地帯」の「近水・向陽」

囲碁発祥国の中国は東南沿海地域の一部と台湾の半分弱が「金三角」内に在るが，**経済力・富裕度**と共に**囲碁の発達度**も如(にょ)実に反映されている。一番上の**上海は20世紀中国の「碁都」**（囲碁が最も栄(さか)えた都市を表す造語）と為り，**浙江は上海と並んで超一流の棋士を輩出し，台湾から日本碁界の覇者や世界王者が多数出て，3地域の「碁力」**（造語）**の強さは突出**する。**福建**は総合力に遜(そん)色が有るものの，**史上最強の「碁神」呉清源**（1914～2014）**の故郷**である。

上海は漁村から内外有数の先端大都市に伸(の)し上がった深圳の遥か先を行き，県（1292～1927）の時代に鴉片(あへん)戦争（1840～42）後の開港から急成長した。囲碁でも伝統が浅いながら**高手・愛棋家が雲集し北京に匹(ひっ)敵する隆(りゅう)盛**を呈し，中共建国後は**初の選手権戦(タイトル)**（全国囲棋錦標賽［選手権戦］）**開催**（1957），**初の専門誌**『囲棋』月刊**創刊**（60）等で牽引役を果し，選手権者や高段者が多く88～98年全国団体選手権戦で1・2隊（選手団(チーム)）を出した程**層が厚い**。

1992年に全国体育総局棋牌運動中心(センター)（盤上・卓上遊戯の主管官庁）所轄の中国棋院が成立し，囲棋・象棋(シャンチー)（中国将棋(しょうぎ)）・国際象棋（西洋将棋(チェス)）・五子棋（連珠(じゅ)）・橋牌（西洋骨牌(トランプ)の1種であるブリッジ）・麻将（麻雀(マージャン)）の競技等を管理し，**「碁都」も棋院本院所在・道場林立の北京に移ったが，中国棋院の祖形は全国初の専門団体と為る上海棋社**（60年創設，後に「社→院」と改称）で，初代院長（～2003）陳祖徳（1944～2012，82年初代九段［3人中2位］）は上海出身である。

英国の小説家ディゲンス（1812～70）の長篇『二都物語』（59）の題（漢訳『双城記』）を借りて，**20世紀前半の中国碁史は北京・上海両市(two cities)の高手群が作った**と言って可(よ)い。当初上海碁界を上(うわ)回った**北京碁界の繁盛(じょう)**は主に清朝・民国初期（～1927）の**首都の地位**と，北洋軍閥(ばつ)皖(かん)系（安徽(き)閥）総帥**段祺(き)瑞**（1865～1935，13～26年に陸軍総長4回・参謀総長1回・総理4回・執

政［国家元首］1回）**の後援**に負い，段の下野（26）と南京政権の樹立（27）後は優位を失った。

段祺瑞は碁を3度の飯より好きで協賛対象の高手と打つ事を日課とし，相手を務めた顧水如（1892～71）・劉棣懐（1897～79）・過惕生（1907～90）は民国時代の頂上級である。「神童」呉清源も初対局で手加減を知らず大勝し2度と呼ばれなかったが，金銭的な援助を貰い続け後の大成に繋がった。学生・労働者の反帝国主義示威に対する武力弾圧（1926.3.18，47人射殺）等で悪名高いが，**囲碁中興の産婆めいた貢献**は評価できる。

清末の北洋は北方両洋（渤海・黄海）に臨む直隷（河北）・山東・奉天（遼寧）3省に渉る広域で，北洋軍閥は北洋通商大臣袁世凱（1859～1916）の指揮で整備された近代式陸軍を基盤とし，袁の死後に直（隷）系（～28）・皖系（～20）・奉（天）系（～28）・晋（山西）系（～49）・馮（玉祥［1882～1948］）系（～28）に分裂した。諸派の首領は段祺瑞を除いて全て北方出身者で，**唯一の南方人が政・軍界随一の愛棋家**である事は示唆に富む。

直系は首領馮国璋（1859～1919）の直隷出身（河間県［今は市］，北緯38°29'・東経116°12'）に由来し，馮歿後の保定・洛陽両派の曹錕（1862～1938）と呉佩孚（1874～1939）は，同省天津県（今は市）と山東蓬莱県（37°39'・120°52'）に生れた。奉系総帥張作霖（1875～1928）の故郷は**東北**の奉天府海城県で，晋系首領閻錫山（1883～60）が生れた山西五台県（38°46'・113°24'）は，**西北**軍閥馮玉祥の故郷（直隷青県，38°36'・116°48'）と共に**華北**に在る。

北方軍閥を打倒す当く国民党革命政府（1925.7.1成立，広州）の国民革命軍（8.18創建）が26年7月1日に北伐を始め，28年6月8日に北京に入城し12月29日に東北軍閥の帰順を得て全国を統一した。北伐総司令蒋介石（1887～1975，浙江奉化県［今の寧波市奉化区，北緯29°39'・121°25'］出身）の勝利は，政権掌握・南京建都と共に**南・北の力関係の大逆転**を意味し，**清朝の崩壊と民国の誕生も華中の武昌で勃発した辛亥革命**（1911.10.10）**の所産**である。

「三北」（東北・華北・西北）以南の華中は河南・湖北・湖南を含み，**河南の古都は全て北方側**に位置する。**中国の南北は東の淮河～西の秦嶺の降水量800粍分布線が分水嶺**で，国家公認の南北地理分界線標志園（境界線標識公園。2009年落成）は江蘇淮安市（北緯33°30'・東経119°08'）に在る。袁世凱の生地の河南項城県（今は市，33°17'・115°）は線上に当るが，段祺瑞の古里合肥（安徽省都，31°51'・117°16'）は**華東の南方側**に入る。

段祺瑞が礼遇した3人の国手の出身地は，顧水如が江蘇楓涇鎮（今の上海金山区，北緯30°49'・東経121°20'），劉棣懐が南京出生・祖籍（父親の生地）安徽桐城（県→市，30°58'・116°55'），過惕生が安徽歙県（29°48'・118°34'）である。高い比率を占めた**安徽の囲碁の伝統・実力**が現れる様に，**省都は中国囲棋協会成立**（1962.11.11）**の地**で，中国棋院の2代目（2003～07）院長王汝南（1946～　，82年初代八段［2名中1位］）も合肥の人である。

民国初の名家には北京出身・在住の汪雲峰（1868～?［享年80前後か］）も居たが，その指導を受けた顧水如・劉棣懐は年齢差の強みも有って20年代初めに彼を凌ぎ，30年代初め

に上海で雄を称(とな)える劉は一～二段差の格上と為った。南下した顧・劉等の**「上海4棋家」の活躍**は**北京碁界の地盤沈下**を際立(きわだ)たせたが，**上海碁界の隆盛は大富豪張澹(たん)如**（生歿年未詳，浙江湖州府［今は市，北緯30°52'・東経120°06'］出身）**の支援を抜きにして語れない**。

張静江（1877～1950，国民党元老）の弟澹如は実業で巨富を築き，上海証券物品交易所の創設（20）に関り投資家の手腕を振るった。非専業強豪(アマチュア)の彼は私財を投じて1932年に上海囲棋研究会を作り，物心両面の糧(かて)（食事・手当と資料［特に日本の棋譜］）を提供した。30年代半ばの不動産投資失敗で**後援の財力・意欲**を失ったが，**「南張北段」**と言われる程の**強力な推進は「碁都」の形成に寄与**し，1942年に日本棋院（24.7.17創設）から四段の贈与を受けた。

日中戦争の6年目に瀬越憲作・呉清源（共に同年八段）・橋本宇太郎七段（1907～94）が上海・南京を訪れ，中国の強豪に四・三・初段各6・5・6人の認定を与えた。顧水如・劉棣懐に次ぐ四段の3位王子晏(あん)（1892～1951）は浙江嘉興の出身で，20年頃の上海移住後に張澹如の無償(しょう)給与で碁に専念し**「南王北顧」**と並称されるに至った。**北京碁界の凋(ちょう)落で劉が上海に移り**（1929）**「南劉北顧」時代**に変ったが，顧も天津に引っ越した後33年から上海に定住した。

四段4位の雷溥(らいふ)華（?～1968?）は北京（出身も同じか）の名手で，30年代初めに上海囲棋研究会に入り師範を務めた事が有る。5位の魏海鴻(こう)（1900～70）は湖北江陵県（北緯30°05'・東経112°28'）の人で，上海「棋界4家」で顧水如・劉棣懐・魏に次ぐ陳藻(そう)藩（1888頃～1953）は福州生れで，42年に三段（王幼宸(しん)［1894～1982，北京出身］に次ぐ2位）が贈られたが，**東亜「金3角」内の上海・浙江・福建の高手はその年代の上位陣に出揃った**。

瀬越憲作は1928年6月に日本式の九段級で南・北高手各14・20人の格付けを行い，「九（段）」は呉清源のみ，「八」は王子晏・劉棣懐，七（段）は顧水如・汪雲峰・雷溥華・丁(てい)公敏・潘(はん)朗東とした。呉の生地の福州は東亜「金三角」に在り，丁（1905～31）・潘（1885頃～1931）は江蘇の呉江県（今の蘇州市呉江区，北緯31°08'・東経120°38'）・宜(ぎ)興県（今は市，31°22'・119°47'）の人で，同省南部・上海・浙江北部から為る**長江下流三角洲(デルタ)の俊(しゅん)才多産**を裏付ける。

上位3階級の11人中9人が南方出身で，「六」の陳藻藩・雷葆(ほ)申（雷溥華の兄，生歿年未詳）・王幼宸の順位も**「南高北低」**である。「五」（10人）の筆頭呉祥麟(りん)（1880～1946）は南京人，次の魏海鴻・過遇春（過惕生か兄旭(きょく)初［1903～92］と思われる），「四」（4人）の筆頭張澹如，42年贈与初段の筆頭董(とう)文淵(えん)（1919～96，杭州出身）も南方勢である。木谷實六段（1907～75）が34年訪中後に三段相当と認めた張・顧水如・魏・雷溥華・劉棣懐も，北方人は雷だけである。

前出の**南方棋士の生地・祖籍は殆(ほとん)ど東亜「金三角」又(また)は中国の「先富」地域**に在り，圏外の魏海鴻の江陵と顧水如の金山は経度差8度52分に対し緯度差が44分に過ぎない。その北緯30°05'と同49'一帯に杭州・嘉興・湖州・桐城の同12'・42'・52'・58'，南に歙県の29°48'，北に呉江・上海・宜興・合肥と南京の31°08'・同10'・22'・51'と32°03'の僅差が見られ，**桐城・湖州間の北緯30°55'±1度8分に21世紀前半碁豪輩出の黄金地帯**が現れる。

長江沿岸の重慶/武漢/南京・上海は東経106°30’～121°29’間の**北緯29°33’～32°03’**に在り，**上/中/下流4大都市を育てた「母親（なる）河」の長江文明は各界の英才量産の母胎**と為る。**棋士中の囲碁「中興の祖」陳祖徳の「碁都」出身と東西対称**を為す様に，彼の初代九段授与の翌年（1983）に**重慶で生れた古力は一代の覇者**と成り，中国最多の世界戦優勝8回（2006［初戴冠に由り九段昇進］～15），名人5期・天元6期（05～09，03～08）等の良績を持つ。

2018年LG杯世界棋王戦の優勝者謝爾豪（1998～　，17年五段）は，湖北初の囲碁世界王者・九段と成り**自身と故郷武漢の「含金（黄金［価値］含有）量」を証明した**。1980年象棋全国個人戦で柳大華（1950～　）が上海の胡栄華（1945～　）の連覇記録を10で止めた時，**南方棋士の優勝独占**を断った快挙として囃されたが，出身地の湖北黄陂県（今の武漢黄陂区，北緯31°01’・東経114°23’）は，北側に在る南北境界線との距離が優に250㌔を超える。

第1・2回（1956・57）王者楊官璘（1925～2008，広東東莞県［今は市，北緯23°02’・東経113°43’］の人）に続いて，武漢の李義庭（1937～2014）が優勝したが，楊の復位（第4・6回［後者は並列］）と胡栄華の第5～14回（60～79，囲碁個人戦と同時・同地開催）連覇，及び自身の体調に由る退潮で埋もれて了った。湖北初と誤認された柳大華の優勝は2回続いたが，**北方人の初優勝は第17回**の李来群（1959～　，河北邯鄲市［36°36’・114°29’］出身）である。

各種競技の南北対抗戦は凡そ長江で線引きし，囲碁の国家隊でも北岸在住者は北軍に属されたりするが，**象棋界と通じる「南強北弱」**の故の遣り繰りとも勘ぐり得る。**中国囲棋甲級聯賽第1～21回**（1999～2019）**で複数回優勝した選手団**も，南方の**重慶**（劈頭5連覇を含む8期）**・杭州**（4期）**・上海**（3期）に限る。他所や外国から招聘した「外（来）援（軍）」も交える組成で当地色が薄れるが，**国内の囲碁強盛地域の代表格**に挙げても差し支えない。

呉清源は瀬越憲作の格付けの発表直後に彼の門下に入り，1930年代末から**日本一の実力**を発揮し50年に2人目の九段に推挙された。彼の強さは幼い時から移住した**北京で名家の指導を受け日本の棋譜を並べた勉強の成果**で，**南方と北方，中国と日本の複合性格は東亜「金三角」と「表中国」の域内に統一された**。**北京碁界に所属する南方人**の過惕生も似た**重層性**を持ち，**50年代の「南劉北過」時代は南方人同士が演じた2都物語**と言える。

全国個人戦優勝は過惕生が第1・5回（1957・62），劉棣懐が第2・3回（58・59）を獲った。第4回（1960）は黄永吉（1927～2012），第6～8回（64・66・74）は陳祖徳と南方人の独占が続き，黄の故郷（安徽当塗県，北緯31°27’・東経118°37’）は又「黄金地帯」に在る。第9・11～13回（1975・77～79［第10回は中止］）の聶衛平（1952～　，遼寧瀋陽出身）連覇から，1年先に開始した象棋の同棋戦より7年早く**南軍の単独制覇は持続的に打ち破られた**。

1964年2月10日に国家体育委員会（中央官庁）は「中国囲棋棋手（棋士）段位制条例」案を公表し，**日本の九段/級制を導入**し43人の棋士に初～五段（8・8・10・13・4人）を授与した。主に過去（特に直近）の全国大会の成績に依拠した選考の結果，**日本に劣る水準に鑑**

みて最高と定めた五段は過惕生・陳祖徳・呉淞笙・劉棣懐と為った。第5・6回大会3・2位の呉（1945～2007）は陳と同じ上海の出身で，**頂上級の4人は定番の様に南方人**で固まった。

四段陣には日本棋院贈四/三段（最下位/1・3位）の魏海鴻/王幼宸・金亜賢（12・8・5位）が居り，金（1892～1980）は北京出身で**棋士に珍しい少数民族**（満［州］族）である。筆頭の沈果孫（1942～　）は江蘇常熟市（北緯31°42'・東経120°48'）の人，次の趙之華（1936～78）・之雲（1941～96）兄弟は上海生れ（弟は後福建に移籍），鄭懐徳（1945～2012）は上海生れ・江蘇在住とされ（未詳），**全て「黄金地帯」出身者の上位8人**の次に始めて北京の人が出た訳である。

43人の居住地別は上海10人，北京8人，安徽6人，江蘇4人，広東3人，湖北・浙江・四川（初出順）が各2人，山西・河南・河北・福建・黒龍江・吉林（掲載順）が各1人である。過惕生は北京，沈果孫は山西に区分されたので**南方人の比率は約3/4**を占めたろうが，特筆す当き唯一の女性で最年少の初段魏昕（1947～　）も，四段の黄永吉・朱金兆（生年等未詳），二段の史家鋳（同）・王汝南，初段の胡懋林（同）と同じ安徽人である。

1965年に**毛沢東の無何有郷的な平等思想**に由り軍の階級制が撤廃され，「草案」の儘の**囲碁段位制も自然消滅**と為った。毛が発動した政治運動**「文革」は迫害・武闘等の内乱**が10年続き，**碁界も雷溥華が紅衛兵**（極左の青少年［組織］）**に撲殺される等と被害**が多々有った。全国個人戦・対日交流戦（逐年）は勃発年の挙行（倶に第7回）後**1974年に漸く再開**し，第9回個人戦も予選終了後の本戦は毛の死去（76.9.9）で娯楽自粛の一環として中止した。

改革・開放発足の1978年に碁界の新機軸として全国個人戦で女子の部が設けられ，**女性棋士群が男性軍団より1世代早く日本を追い越す飛躍の起点**と為った。魏昕は第1回の5位を最後に入賞（6位まで）の圏外に去り，孔祥明（1955～　，成都市［四川省都，北緯30°39'・東経104°04'］出身）が初代王者と成り，その2連覇と次の楊暉（1963～　，上海出身）の3連覇で，栄冠は丸で当然の如く**5期連続「黄金地帯」出身者**の手に落ちた。

1983年に北方人の豊雲（1966～　，河南安陽［北緯35°52'・東経114°17'］出身）が優勝したが，次期から孔祥明・楊暉が1回ずつ返り咲きし，続いて芮廼偉（「廼」は通称「乃」，1963～　，上海出身）が4連覇した。次の張璇（1968～　，福州出身）の奪取と楊の2連覇の後，華学明（1962～　，浙江慈渓［県→市，30°13'・121°22'］出身）の優勝に由って，**東亜「金三角」内と北緯31±1度強線「金帯」上の南方勢の16回中15回獲得の圧倒的な優位**が示された。

1982年の段位制復活で3月17日に10人が高段棋士証書（免状）を授与され，女性への配慮からか孔祥明と何暁任（1954～　）が六・五段と成った。何は前年までの個人戦で4位→3位→準優勝と進んだが，連覇中の楊暉を飛ばした認定は訝られる。同年には入賞せず翌年の5位が最後の良績と為り，以後昇進も無い儘で加奈陀に移住したので期待が外れたが，**地域的な均衡**を顧みず敢えて**孔と同じ成都人を据えた選択**は疑問が持たれる。

九段の聶衛平・陳祖徳・呉淞笙には楊暉の同郷が2人居り，王汝南に次ぐ八段の華以剛（1949

～　）は江蘇常州（市，北緯31°46'・東経119°58'）出身である。七段の黄徳勲（1950～　）の成都出身は一層何暁任の抜擢に違和感を覚えるが，2・3位の羅建文（1943～　，福州出身）・沈果孫と合せて**上位10中9人も南方勢**と為る。**中国棋院院長を務めた棋士3人**も3代目（2007～09）の華を含めて，**初代九・八段の南方人**（呉は1985年に濠太剌利に移住）**一色**である。

初代高段者の昇進は孔祥明（同年七段，1985年八段）のみで，**年功序列や直近の単年度成績を重んじた評価の偏頗**が感じられる。**実力主義に徹底す当く**翌日から年内2回（3.18～4.2, 12.9～20）昇段戦が行われ，**初代五～八段が下位者の試金石**を務めた。其々20・94人高/低段入り（四～七段が81・13・6・1人），24人昇段・2人六/五段認定の中で，馬暁春（1964～　，浙江嵊県［今は嵊州市，北緯29°35'・東経120°49'］出身）の七段獲得→八段昇進が群を抜いた。

1980年全国個人戦で聶衛平の4連覇に終止符を打った劉小光（1960～　，河南開封の人）は，聶の復帰（81・83）後3度優勝（82・84・86）の馬に一歩遅れて82年に六→七段と成った。馬は翌年の昇段戦で19歳3ヵ月を以て**世界最年少の九段**と成り，次に聶衛平と共に昇段戦で**後進を阻む役**に回った。1984年に曹大元（1962～　，上海出身，82・83年六・七段）・劉小光が八段に進み，曹は86年に更に昇り九段陣に於ける上海勢の比率を4割に戻した。

1987年昇段戦で九段に進んだのは銭宇平（1966～　，上海出身，82年四→五段，83・85・86年六→八段），江鋳久（1962～　，山西太原出身，82～85年順次五～八段）である。翌年に劉小光は前年の第3回日中スーパー囲碁・NEC杯（中国側名称は「中日囲棋擂台賽［勝抜戦］」）で4人抜きした功績に由り**特例で九段が許され**，芮廼偉も**昇段史**（1982年四・五段，84～86年順次六～八段）**を全うし**，**九段中の上海人の過半数（5/9）を維持**した。

次の九段は1991年の兪斌（1967～　，浙江天台市［北緯29°09'・東経120°58'］出身），93年の陳臨新（1963～　，浙江杭州）・張文東（1969～　，北京），95年の廖桂永（1962～　，広東広州）・邵震中（1958～　，江蘇淮安），96年の鄭弘（1968～　，四川成都）・汪見虹（1963～　，河南洛陽）・呉肇毅（1965～　，広東肇慶［北緯23°03'・東経112°27']），97年の豊雲（**芮廼偉に続く世界で2人目の女性九段**），98年の宋雪林（1962～　，成都）・邵煒剛（1973～　，上海）と**南方勢が多い**。

20人目の邵煒剛は1986年の第1回定段賽（入段選抜試合）で専業入りした同期の九段第1号，**呼び水**の様に翌年に**同世代・同郷**の常昊（1976～　）と梁偉棠（1963～　，広州）が九段と成った。2001年の周鶴洋（1976～　，洛陽）と02年の羅洗河（1977～　，湖南衡陽市［北緯26°47'・東経111°54']）の後，06年に古力・王檄（1984～　，河南開封）がLG杯・テレビ亜細亜囲碁選手権戦優勝に由り，**奨励規定の九段昇進**（七・五段より**跳び級**）を果した。

2007年に陳耀燁（1989～　，北京）が世界戦準優勝1回（前年）＋TV亜細亜選手権戦決勝進出に由り五段→九段に特進し，丁偉（1979～　，雲南南華県［北緯24°57'・東経101°02']）が**段位戦で九段を勝ち取った最後の人**と為る。2009年に孔傑（1982～　，北京）が陳と同じ理由（2回とも同年）で七段から昇進し，10年に朴文垚（1988～　，黒龍江哈爾濱）が世界戦準

優勝（前年）＋決勝進出五段から躍進し，2 人とも九段昇進後の決勝を制し世界王者と成った。

2011 年に邱峻（1982～　，上海）が 09 年と今次の世界戦準優勝 2 回に由り八段から進み，12 年に江維傑（1991～　，上海）が世界戦優勝で五段から跳び，謝赫（1984～　，山東青島市［北緯 36°05'・東経 120°20']）が農心辛拉麺杯世界囲碁最強戦（韓・中・日団体勝抜戦）で 3 連勝し中国勝利を決定した功績に由り七段から昇った。**新九段が生れない 2003～05 年の断層の後の世界戦良績に由る特進の新潮は，古力から加速し世界王者量産の時代を作った。**

大豊作の 2013 年には 1～3 月に周睿羊五段（1991～　，西安）・時越五段（同，河南洛陽）・范廷鈺三段（1996～　，上海），12 月に芈昱廷四段（同，江蘇徐州市［北緯 34°10'・東経 117°09']）・唐韋星三段（1993～　，貴州貴陽）が世界戦優勝で九段昇進を果し，14 年 2 月に柁嘉熹三段（1991～　，黒龍江大慶市［46°35'・125°]），15 年 1 月に柯潔四段（1997～　，浙江麗水［地区→市，28°16'・120°33']）も同様の栄光を浴びた。

2016 年に李欽誠二段（1998～　，江西南昌市［省都，北緯 28°41'・東経 115°53']）の **TV** 亜細亜選手権獲得，党毅飛五段（1994～　，山西太原）が世界戦準優勝 2 回以上に由り九段と成った（党は進出決定・昇進後に翌年の決戦で優勝）。翌年に檀嘯八段（1993～　，吉林長春［省都，43°53'・125°19']）が世界戦優勝で特進し，連笑八段（1994～　，遼寧丹東市［40°07'・124°22']）が丁偉以来 **9 年ぶりで昇段点達成に由り**九段に進んだ。

成績累積得点評価の実施（1997）**で昇段戦は失点を嫌う七～九段陣の不参加で長らく崩壊し，2016 年の昇段制度改革**で連笑の様な**世界戦決勝進出と無縁の棋士にも機会が回って来た。**2017 年の辜梓豪五段（1998～　，湖北仙桃市［北緯 30°18'・東経 113°22']）と翌年の謝爾豪五段に続いて，19 年 2 月に楊鼎新七段（1998～　，河南鄭州市［省都，34°45'・113°38']）が世界戦優勝で九段の資格を得，10 月に**等級分も九段昇進基準に達した。**

地域分布の集計は出身（本籍）地を基準に用いる故，聶衛平・呉淞笙・江鋳久は祖籍の河北深県（今の深州市，北緯 38°・東経 115°33'）・福建莆田（県→市，25°26'・119°）・山東済寧市（35°11'・116°44'）でなく，遼寧・上海・山西の人とする。その結果，**上海 10 人，河南 7 人，浙江 4 人，広東・北京各 3 人，四川・江蘇・黒龍江・山西・遼寧・湖北各 2 人，湖南・重慶・雲南・山東・陝西・貴州・江西・吉林各 1 人，**という序列（同数の場合は合計数達成順）が現れる。

最多の上海勢（陳祖徳・呉淞笙・曹大元・銭宇平・芮廼偉・邵煒剛・常昊・邱峻・江維傑・范廷鈺）は，**「碁都」に相応しく 47 人中の 21.3%**を占め**個人・全体の実力も強い**。陳は**最初に日本の九段に勝った一代の覇者**，曹・銭・邵・常・邱・江は**全国個人戦優勝経験者**，常と江・范は**世界戦3冠と各1冠**，芮の韓国棋院客員棋士時代の国手戦（全棋士参加の公式戦）優勝（2000）等，**優勝歴の無い呉を除く 9 人の内外棋戦の数々の選手権獲得・良績**は枚挙に暇が無い。

聶衛平夫人孔祥明の八段昇進で 1985 年に**世界初の合計十七段の棋士夫婦**が誕生したが，79 年に結ばれた**男・女最強者の婚姻**は 91 年に破綻した。翌年に同じ**「北男・南女」**の江鋳久・

芮廼偉の組み合せが出来，**両九段から成る伴侶は今も唯一**である。同じ上海碁界の女傑楊暉（同年八段）は同郷の曹大元に嫁ぎ（9?），常昊は99年に福建出身の強豪張璇（97年八段）を娶ったが，**上海出身の九段の最高・準最高段者同士結婚**を見ても**層の厚さ**が実感できる。

北京碁界が首都の地位の喪失と呉清源の渡日で衰えた後は上海に最強陣が集まり，顧水如・劉棣懐に師事した陳祖徳の大成は「先得月・易為春」の通りである。邱峻の父親邱鑫（生年未詳）は市選手団の総監督も務めた程の名師範で，曹大元等は少年時代に彼に教わった事が有り，曹の弟子范廷鈺も**英才教育の恩恵**を受けた。**「碁　狂　」の陳毅市長**（1901～72，49～58在任）が作った**良好な環境**も，**上海の囲碁振興を加速させた「近水・向陽」**である。

2番目に多い河南勢（劉小光・汪見虹・豊雲・周鶴洋・王檄・時越・楊鼎新）は，**広東並みの人口最多級の省**と雖も全体に占める**14.9%が高い**。劉・汪・周・王は全国個人戦優勝等の良績を持ち（周はTV亜細亜選手権戦優勝・世界戦準優勝2回，劉は世界戦3・4位各1回），世界第2号女性九段の豊は女子全国王者1回, 時は等級点1位の21ヵ月（2013.5～15.8, 最後は16ヵ月連続）が有り，楊は世界戦決勝で時を破り，**世界王者が少ないものの数多い活躍**を見せている。

上海・北京「2都物語」と無縁だった**河南の囲碁勃興**は，**党・政首長劉建勲**（1913～83，61～66・68～78在任）**の功績が大きい**。毛沢東の**盲動的な経済「大躍進」**（1958～59）の**失敗で大飢饉**が起き，3年間で約3千万人が餓死する中で河南の被害が最悪であった。省党委員会第1書記の更迭で着任した彼は民生を立て直し，又**「文革」の文化破壊中の1972年に省囲碁隊を編成し，好条件で他所から誘致した高手の即戦力・育成力で先進地域群へと躍り出た**。

1964年認定四段10位の陳錫明（生年等未詳，江蘇無錫市［北緯31°33'・東経120°18'］出身），三段10人中5位の邵福棠（1926～2014，浙江［地域未詳］人か，46年武漢に移住），82年認定七段2位の羅建文（福州出身・在勤），五段13人中11位（翌年六段）の黄進先（1943～　，広西桂林市［25°16'・110°17'］出身）は，**河南体育委員会に引き抜かれて同省代表**と為り，邵は翌年に**再建した国家集訓隊の教練**を務め，羅・黄は後に中国囲棋協会副主席に選ばれた。

河南省体委主催の1973年10省・市囲棋邀請賽（招待試合）は**「文革」中初の全国規模の大会**と為り，出場の**北京・上海・天津・遼寧・江蘇・広東・浙江・四川・山西・河南は高手多数の地域**である。後の**九段47人中35人が天津を除く9地域の出身**（重慶は直轄市に為る1997年までは四川省轄）である。今から見れば複数の九段が出ていない遼寧はその中で遜色が有るが，当時も遼寧～広東の東部沿海地域の山東・福建は対象外ながら**発達度が高い**。

各代表団と哈爾濱・桂林・安徽亳県・新疆等の個別選手を加えた77人の手合666局の結果,「文革」直前の全国個人戦3位（福建代表）の羅建文が**河南代表**として**成年組**で優勝し（呉淞笙・聶衛平・華以剛等は参戦したが成績は計上せず），**青年・少年・児童組は上海代表**の楊以倫（1951～　，江蘇無錫出身，82・83年五・六段）・王群（1957～　，同省揚州市［北緯32°23'・東経119°25'］出身，82・83・85・86年五～八段）と**山西代表**の江鋳久が1位と成った。

揚州生れ・上海育ちの王群や江蘇出身・上海所属の華以剛・楊以倫の様に，**「碁都」の高手群は移住者が多く非出身者の在勤者も入れると上海勢は更に膨らむ**。逆に九段の東部沿海地域出身者に河北・天津と共に福建が欠ける事は，羅建文・張璇八段の河南・上海への**移籍・定住**の様に**人材流出の要素**も有る。昔の「呉越」と今の「江浙」で浙江と並称される江蘇の九段の相対的な少なさは，南京生れの劉棣懐の様な上海への移籍の所為でもある。

江蘇出身の邵震中（現江蘇棋院［設立時期未詳，1980年既存］院長）の生地淮安は**南北境界線上**に在り，同省2人目の九段と初の世界王者芈昱廷の故郷徐州も緯度が僅か0.7度高い。江蘇は北緯32度台区間を流れる長江で南北に分けられ，南京・常州・無錫・蘇州が在り面積が小さい**江南は豊か**で，南の揚州～西北の徐州の**江北は隣接の内陸部の安徽並みに江南に劣る**が，邵・芈の出現は**九段陣の江南出身者の不在**を浮彫にした点でも興味深い。

2000年以来の経済協力開発機構に由る3年毎の学習到達度調査(PISA)の第7回の結果では，79の国・地域（約60万人の15歳）の3分野で全て1位と成ったのは中国で，新嘉坡が僅差で2位に就け，日本は読解力15位，数学的応用力6位，科学的応用力5位であった。中国は**最も豊かな北京・上海・江蘇・浙江**のみの参加だから，国全体（取り分け農村部）を反映していないと不審がられたが，**囲碁の発達度を見ても4地域の智力の高さが判る**。

「表中国」の最優秀層で他者の平均と対抗するのは，虚栄（「見栄を張る」「虚の繁栄」の両義）志向のあくどい行り方である。上海だけで行われた前々回の調査は中国を代表し得ないと批判を浴び，前回は陣容を北京・上海・江蘇・広東に広げたが，得点が下がった結果は他の3地域の平均が上海に及ばない事を意味する。2018年の広東→浙江の差し替えは戦力強化の目論見も有ろうが，**究極の人智競技である囲碁でも浙江は広東を超えて頂上級**に在る。

浙江の九段4人は3位であるが，**国内乃至世界の一代の覇者が複数**居る。**馬暁春**は昇段戦に由る第1号と中国初の世界王者（1995年2冠）で，84～2002年の連年優勝（選手権数40）で**90年代の第一人者**を成した。兪斌は選手権数12（1987～2006）の内，世界戦・テレビ亜細亜選手権戦優勝が1・2回（97～04）有る。**柯潔**は内外の初優勝（2014・15）から世界7冠等20の選手権を有し，**中国・世界序列1位**（15.9/14.8より）**を数年も殆ど間断無く保ち続けた**。

浙江の**国手輩出の伝統**は，清の**徐星友**（1644頃～?，杭州出身）・**范西屏**（1709～69，寧海県［今は市，北緯30°26′・東経120°34′］出身）・**施襄夏**（1710～71，同）等に遡る。范・施は1839年に平湖県（今は市，30°40′・121°）の名士張永年（生歿年不詳）に招かれてその自宅で稽古を付け，期間中に張の要請で13局の争碁を打ち，棋譜が現存する**「当湖**（平湖の別名）**十局」**は**「力碁の雄」陳祖徳・古力等の絶賛**の様に，**中国古碁の絶頂の境地を示した絶品**である。

1988年発足のCCTV中国囲棋電視快棋賽（テレビ早碁戦）は2002年から**後援者名**を冠し，招商銀行杯（～11）・中信銀行杯（～15）・象嶼杯（16）を経て浙江平湖・当湖十局杯と為り，19年テレビ亜細亜選手権戦も平湖で行われた。**厦門象嶼集団**（1995年創業の物流・不動産等総

合企業，米*Fortune*誌選「2018年国際企業番付500強」375位）から平湖市文化広（播）電（視）新聞（放送・映画・電視・報道）出版局への協賛者交代は，東亜「金三角」内の沿海北上である。

「囲碁之郷」浙江は能く重要棋戦の開催地に選ばれ，碁史に残る例として第1回応昌期氏杯囲棋世界職業錦標賽決勝五番碁第1〜2・3局（1989.4.25・28，5.2）の杭州・寧波（北緯29°52'・東経121°33'）が有る。囲碁国際化元年（1988）に世界囲碁選手権富士通杯に次ぐ世界戦第2号を創った応（1917〜97）は，寧波生れ→上海在住→福建在勤を経て台湾で実業家・囲碁規則研究家と成り，東亜「金三角」内で歩む人生と築いた巨富が「囲碁五輪」を生んだ。

囲碁人工智能制覇時代の2年目の「人間vs.機械の最終決戦」（2017.5.23〜27）は，嘉興桐郷市烏鎮（北緯30°64'・東経120°54'）の施設を使った。同じ江南6大古鎮の湖州南潯鎮は民国初期の上海碁界を支えた張澹如の故郷で，囲碁縁で同年9月11日の中国阿含・桐山杯快棋公開賽決勝の地と為った。柯潔は其々*AlphaGo*（米・英Google DeepMind社製囲碁対局人工智能）と柁嘉熹に負けたが，2回の場所選定は彼及び浙江碁界の実力と無関係ではない。

碁に耽って時が経つのに気付かない事を表す熟語は色々有り，祖沖之（429〜500，南朝・宋〜斉の数学者・天文学者）選『述異記』（短篇小説集）に見える「爛柯」は，晋の樵夫王質は童子4人の対局に見入って時間を忘れ，その間に斧の柯が爛り，帰って見れば当時の人は誰も居なかったと言う。爛柯山は浙江衢州市（別名柯城，北緯28°58'・東経118°51'）に在り，東南に隣接する麗水から世界覇者の柯潔が出たのは，天授の囲碁強盛特区の所産と言えよう。

中国初の挑戦制棋戦の天元戦（1987年創設）の決勝五番碁の会場は2009年から，江南6大古鎮の内の蘇州呉江区同里鎮（北緯31°09'・東経120°44'）に固定した。清の囲碁「三聖」の黄龍士（1651か52〜1700頃，江蘇泰州姜堰［今は市轄区，32°30'・120°09'］出身）と范西屏・施襄夏も，九段の江蘇・浙江出身者と同じ比率である。両省が古から囲碁先進地域を為して来たのは，昔の科挙（官僚登用試験）から今の大学入試の全国最上位の良績を思えば合点が行く。

中国で隋〜清の598〜1905年に実施された科挙制度は，朝鮮半島の高麗（918〜1392）・李氏朝鮮（1392〜1897）でも導入されたが，学力・成績の「南高北低」は中国を彷彿させる。半島の穀倉地帯である三南地方（慶尚・全羅・忠清3道）は，経済・政治力が強く士大夫（官僚知識層）・学識者を輩出した。東亜「金三角」の線引きは正しく南北格差に合致し，南部の繁栄は中国の東部沿海地域や表日本と通じて，「近水・向陽」の「先富」原理に適う。

日本棋院が国際普及を増進する目的で設けた外国籍特別採用棋士制度（1978年採用開始）は，囲碁先進国・地域（日本・中国・韓国・台湾・朝鮮民主主義人民共和国）以外の国籍を有する院生（棋士候補生）が対象と為る。北緯38度線以南の大韓民国（1948.8.15樹立）は50年に段位決定戦が始まり，90年代半ばから世界最強を20年保ったが，北朝鮮（同9.9）は棋士制度も専業国際戦の実績も無く，国民の人種的な素質が高いとしても国家は先進に属し得ない。

衛星写真に映る朝鮮半島の夜景は南北の明暗が強烈な対比を為し，平壌の「一点豪華」

を除く**北部の暗闇**は改革・開放前の中国にも引けを取る。電力不足に現れる**経済の窮乏は東亜「金三角」外**の位置の説明に為るし，**国運の衰微に由る清末碁界の様な不振以上に抑々囲碁を嗜む余裕も無い。「金三角」内1級行政区の上海・浙江・広東の九段群が全体の36.2%をも占める高い比率**は，**経済の発達，社会の発展と囲碁の強盛との相関**を示唆する。

朝鮮半島の「三南」に対する**中国の「三北」出身の九段**は，**東北5**（黒龍江・遼寧各2，吉林1），**華北5**（北京3，山西2，河北・天津・内蒙古0），**西北**1（陝西1，甘粛・寧夏・青海・新疆0）の**11人**に過ぎない。李氏朝鮮では**西北部**（黄海・平安2道）は科挙に合格しても要職を与えない**地域差別**に遭い，洪景来（1780?〜1812）の乱（11〜12）を惹起したが，**中国の西北**は「春風不度玉門関」の通り**不毛の地が多く同じ北方でも華北・東北に立ち遅れる。**

本土6大広域中の**華東18人**（上海10，浙江4，江蘇2，山東・江西各1，安徽・福建0），**中南13人**（**華中**の河南7，湖北2，湖南1，**華南**の広東3，広西・海南0），**西南5人**（四川2，重慶・雲南・貴州各1，西藏0）は**西へ行くと逓減する。**中南の内の河南は北方と見做し江蘇の淮安・徐州は南北境界線上につき除外すれば，**一流棋士の「南高北低」の常態**は26対19で変っておらず，**台湾勢や日本で九段と成った本土・台湾出身者も算入すれば差が一層拡がる。**

改革・開放初期に**海外移住・外資導入**の風潮を諷刺する巷の戯言に，「北京人愛国，上海人出国，広東人売国」と有った。**経済特区が犇めく広東の国際化・富裕化の先行**を嫉む心理も混えて，「私利の為に国益を損なう広東人」の汚名を撒き散らすのは，地域差別（或いは逆差別）や「仇富」（金持を恨む）の憎悪表現である。その言語道断の「非国民」扱いの侮蔑と違って，**「上海人出国」は呉淞笙・芮廼偉の濠太剌利・日本移住を見ても実情に合う。**

中国で人口に膾炙する宋の無名氏の詩の**「四喜」（4大喜び）**は，「久旱逢甘雨，他郷遇故知，洞房華燭夜，金榜題名時」（長い旱魃の後に慈雨が降る。他郷で知人に遇う。新婚の寝室に華燭を点す。金榜に名を掛く）と言う。**西洋の「罪の文化」と違い日本の「恥の文化」と通じる中国の「名の文化」**に由って，**科挙の合格発表に名前が載る事は人生最大の快事**とされるが，**自身も知人も異郷に赴く行動に「人往高処走」（人は高き処へ行く）の上昇志向**が窺える。

「久旱」後の「甘雨」の有り難さは黒河―騰衝線以西の降水量僅少地域の渇望を思わせるが，**東亜「金三角」内の上海人まで大挙に国を離れる事は国際的な経済格差の為**である。昨今の中国で北朝鮮観光が人気を博す理由には其処で数十年前の中国の姿を見出し，貧困から脱出した幸せを確認したい欲求が有る。碁傑が続々と海外に生活拠点を移した1980年代後半の中国と先進国との落差は，朝鮮半島南北の夜景の明暗に近い程の懸隔であった。

上海両九段の他に**江鋳久も芮廼偉と日本で「洞房華燭夜」を迎え**，豊雲は米国，孔祥明は日本，七段の陳嘉鋭（1954〜　，84年昇進）は香港→日本，江鳴久（1957〜　，同87）は弟鋳久と同じ米国，李青海（1959〜　，88）は日本，六段の楊以倫は米国，康占斌（1963〜　，84）・楊晋華（1952〜　，86）は新嘉坡，翁子瑜（1961〜　，85）・王輝（1969〜　，91）は日本に移り，

楊士海（1971～　，99年八段）も妻簡瑩（1972～　，91年二段）の出身地香港に定住した。

1982～88年に誕生した九段9人中3人が海外に行き，女性九段2人と同八段第1号は全て国を後にし，初段位認定の10人も呉淞笙九段・孔祥明六段・何暁任五段が離れた。同じ女性五段の郭鵑（1960～　，85年昇進）は和蘭，牛力力（1961～　，同）は日本に永住し，黄焔（1965～　，山西［地域未詳］出身，86）は韓国に嫁ぎ，牛の妹嫻嫻（1964～　，82年三段）も91年に日本でマイケル・レドモンド七段（1963～　，米国出身，2000年九段）と結婚した。

1982～88年に四段と成り国内での高段入りが無い19人中8人も海外に居り，馬亜蘭（1959～　，82年昇進）・李楊（1962～　，8?）・敖立婷（1963～　，83）・宋麗（1965～　，82）・劉波（1966～　，85）・楊橋（1968～　，88）は日本，敖の姉立賢（1960～　，82）は新嘉坡→香港，黄永吉の娘黄麗萍（同）は米国に定住している。唯一の男性の楊は1990年に**専業棋士を辞退したが**，妻尚虹（1966～　，82年三段）も日本に同行した。

28人中**「愛国」の北京人は0，上海は「出国」多数の形象通り5人**（呉淞笙・芮廼偉・馬亜蘭・楊橋・尚虹），**「売国」と誹られた広東は3人**（陳嘉鋭と敖立婷・立賢）居る。**成都4人**（孔祥明・翁子瑜・何暁任・劉波）と**浙江3人**（李青海・楊士海・王輝）は**強盛地域に相応し，江蘇**（楊以倫）・**湖南**（郭鵑）・**安徽**（黄麗萍）・**湖北**（李楊）・**福州**（宋麗）**と合せて，北方勢**（山西の江鋳久・鳴久・黄焔，河南の豊雲，河北の康占斌，天津の楊晋華，哈爾浜の牛力力・嫻嫻）を**大きく上回る。**

彼等の**移住・移籍先**（複数を含む）の**日本16，米国6，韓国4，新嘉坡・香港各3，台湾・濠太剌利・加奈陀・和蘭各1**は，**囲碁王国と世界第2位の経済大国が最多**で，**非囲碁先進国の超大国が2番目に多く，東亜「金三角」内の「昇龍」「4小龍」は全て入り，欧州・大洋州の3ヵ国も先進国ばかり**である。**経済水準が高く住み良い環境を求めるのは人情の常**であり，**21世紀から棋士の流出に歯止めが掛ったのも中国の急成長の御蔭**である。

芮廼偉は1987年に長江下りの船と武漢で依田紀基七段（1966～　,93年九段）の部屋に行って碁を打った事で，渉外紀律違反として始末書提出・棋戦出場停止を強いられた。**政治的な硬直**は棋戦賞金の相当額上納の内規にも現れ，**経済的な不自由**の極端の例として，楊暉が住宅配分での冷遇に憤慨して4階から飛び下りた（奇跡的に無事で済んだ）と言われる事，閻安七段（1962～　，武漢出身，89年昇進）が一時期タクシー運転手で糊口を凌いた事が有る。

呉淞笙は1985年に**囲碁後進国**の濠太剌利に移り，韓国・台湾棋院客員（89～98，～99）を経て帰国し定住先の雪特尼で客死した。豪州代表として第1回応氏杯で趙治勲（1956～　，韓国出身，81年日本棋院九段）に1点（最小差）負けし，96年三星杯世界囲碁公開戦で前年世界2冠の馬暁春を下し，**優勝歴の無い初代九段の沽券を維持する意地**を見せた。芮廼偉も2000年に韓国の国手戦で優勝し，**最高段位者の存在証明として声価に見合う成果を得た。**

陳嘉鋭は第1回昇段戦（1982）で飛付六段と成り83・84年に六・七段に進んだが，香港に移住・転職（新聞の体育記者）後86年世界非専業選手権戦で優勝し，87年に来日し関西

棋院（50.9.13 独立）で二段下げの飛付五段が許され，**碁史上唯一２回も飛付高段者と認定される棋士**に成った。七段昇進の 1991 年から九段到達（96）後の 2007 年までの本因坊・名人戦総当り（リーグ）入り各２・１期，天元戦勝抜戦（トーナメント）４強（ベスト・フォー）等，**最高段位者に相応しい良績**が数多い。

海外で九段に成った本土出身者は蘇耀国（1979～　）も居り，彼は広州同郷の敖立婷四段に師事し，91 年の来日・院生時代を経て 94 年に入段し，2014 年に最高段に至り，新人王戦優勝（03）・本因坊戦総当り（リーグ）入り５期（04～09）の良績が有る。陳嘉鋭と専業（プロ）入り前に渡日した彼は**広東人の上海人並みの海外進出の好例**で，**本土授与の九段に２人を加えれば 49 人**に為り，**広東人も北京勢と同数の３人から浙江を超えた３位**に出る。

呉清源と林海峰（1942～　，67 年日本棋院九段）を入れると，本土出身者の九段は 51 人に増（ふ）え，**福建の空白が埋まり上海勢も 11 人**に為る。呉は台湾政府から「大国手」称号を受ける際に台湾育ちの林の弟子入りを決めたが，**日本で九段と成った台湾勢は王立誠**（1958～　，88 年昇進）・**王銘琬（めいえん）**（1961～　，同 92）・**鄭銘瑝（こう）**（1963～　，93）・**楊嘉源**（1970～　，2000）・**張栩（く）**（名前は通読「う」，1980～　，03）・**黄孟正**（1958～　，06）・**黄翊（い）祖**（1987～　，19）も居る。

宋麗は来日後 1997 年に瓊韻社（けいいんしゃ）（41 年結成）に入り五段に昇格したが，夫鄭銘瑝は実兄王銘琬・弟弟子黄孟正と共に同社の富田忠夫（1910～2002，97 年名誉九段）に師事し（所属は日本棋院），黄翊祖の師匠に当る。同門の弟鄭銘琦（1965～　，94 年七段）の夫人敖立婷は来日（90）後に蘇耀国を育て，**蘇は林海峰の弟子張栩と無二の親友**である。**日本を媒（ばい）介とする台湾海峡両岸出身者の「碁縁」は，林・宋・敖・蘇の故郷を含む東亜「金三角」内**に在る。

名前に「銘」を共有する３兄弟の妹（いもうと）鄭淑卿（しゅくきょう）（1966～　）は応昌期囲棋教育基金会（83 年設立）の職員で，2007 年に**台湾の一品（九段）第１号（98）で同年の世界戦で優勝した周俊勲**（1980～　）と結婚した。**台湾の棋士段位制度は大陸より早い 1979 年に発足したが，九段の誕生は 16 年遅く総数も１割強**である。周と翌年の陳詩淵（1985～　）に続いて 2002・14・16 年に，林至涵（かん）（1980～　）・蕭（しょう）正浩（1988～　）・王元均（1996～　）が成った。

周俊勲は幼い頃に戴（だい）嘉伸五品（1958～　，94 年三品）・林聖賢五品（1959～　，2003 年七段）の内弟子を 9･6 ヵ月し，世界青少年囲碁選手権戦少年組で準優勝した翌 91 年に**大陸で交流・修行**を行い，宋雪林八段宅に３ヵ月間住み込んで毎日１局の指導を受けた。1993 年に中国囲棋協会初段が授与され，翌年に中国囲棋会で九品（初段）認定・八品昇進を得，後に台湾棋院（2000.3.4 成立）に移籍し，**世界唯一の３棋院棋士**（客員を除く）**在籍者**と為る。

彼は世界非専業（アマ）選手権戦準優勝の翌 1995 年に名人位を獲り，台湾４選手権全制覇の 97 年に大陸の全国囲碁個人戦で６位入賞し，最高品位到達の翌 99 年に中国の新人王戦で４強入りした。2001 年富士通杯４強後に 07 年 LG 杯で台湾棋士初の世界戦優勝を果したが，**小学教科書の立志伝の英雄**と成った瞬間の局後談話で真っ先に，育ててくれた**恩師の宋雪林・兪斌・呉玉林**（1946～　，88 年六段，元中国少年囲棋隊主教練（チーフ・コーチ））**に謝辞を捧（ささ）げた**。

彼を一流入りへと導いた「西南王」宋雪林の故郷**成都は碁傑が輩出し**，全国唯一の盤上・卓上遊戯専門出版社（1985年に成立した蜀蓉棋芸出版社）が有り，**「棋城」（盤上遊戯の都）**と呼ばれる。同市碁界の繁盛は市委第1書記**廖井丹**（1914～2006, 54～66在任）の貢献が大きく，**上海の陳毅，河南の劉建勲と並ぶ政界・地方の有力な囲碁後援者**として，彼は都市首長ながら62年に第2次中国囲碁訪日団の団長を務め，日本棋院から名誉六段を贈られた。

廖井丹が省委の要職を兼ねた**四川**は3年大飢饉で河南・安徽・山東・甘粛と並ぶ激甚被災区で，改革・開放後も2001年1人当り域内総生産の**3等地域**の様に**「先富」区域に及ばない**。重慶は直轄市に昇格する前に四川省轄だったので，世界戦8冠の古力も九段の成都勢2人と同類に近い。廖は四川長寿県（今の重慶長寿区，北緯29°58'・東経107°08'）の人であるが，彼が盛り上げた同省の**最上級棋士の出身は2大都市**に集中する。

成都と共に東亜「第2／3世界」の境界線に在る哈爾濱・長春・北京・西安・太原からも九段が出たが，西側の例外的な九段出身地の黒龍江大慶は哈爾濱の西北150㌔に在る**全国有数の産油地**で，吉林・陝西・山西の九段産地と為る**省都並みの富裕層**に属する。在日を含む広東勢5人中4人が広州人で，貴州・江西各1人は全て省都の出身で，遼寧・河南・浙江・湖北の省都も各1人居り，**在日を含む51人中の非直轄市・省都出身者は17人**である。

非省都出身者の比率が最も高い河南の7人中6人は洛陽3・開封2・安陽1で，**北京3・西安1・太原2と共に古都**（太原は五代の後漢の開封の前の都）の地に生れた。**古都続出の「龍脈」（北緯35°12' ± 1度）と重なる九段の出身地は，34°47'＋1.3度の西安～河南4市～江蘇2市～山東青島の11人**と為る。**建国前の高手輩出の「金帯」（同30°55' ± 1.1度強）の辺りの出身者は，29°43' ± 1.5度の上海～浙江4市～南昌～湖北2市～重慶・成都の21人**居る。

省都・古都・「龍脈」・「金帯」以外の5人の出身地は黒龍江大慶の他に，遼寧丹東・湖南衡陽・広東肇慶・雲南南華が有り，何れも**東亜「金三角」の外と黒河―騰衝線の東側**に在る。中朝国境の鴨緑江の畔の丹東は**国防の重鎮**と為り，衡陽は武漢・徐州と同じ**交通の要衝**で，**盤上の死闘と似合って戦争に纏わる歴史**を持つ。広西に近い肇慶と騰衝以東280㌔の南華は省内の周辺地域に入るが，**九段陣には極端な僻地で生れ育った人は居ない**。

21世紀初頭の経済水準最下位地域の中で黒河―騰衝線以東の雲南・貴州には九段が出たが，同じ圏域内の広西では以西の甘粛と同じく現れない。桂林出身の黄進先は河南への移籍後に五→六段と成り，河南主催の1973年10省・市招待試合に出た桂林の選手も広西代表ではなく，**5つの少数民族自治区は全て囲碁中進地域にも入らない**。**「超富裕層」の香港・澳門にも高手が生れない**のと通じて，**囲碁の発達と漢字文化の密接な相関**を立証している。

1964年認定初～五段43人中の**非主体民族者**は満族の金亜賢で，82年以来の九段47人中1人だけ朝鮮族の朴文垚が居る。**全人口に占める少数民族の8%より低い比率**も然る事ながら，満族は清の中国統治で逆に**漢字文化に同化され**満州語は絶滅危惧種と為って久しいが，

2人の**居住地の北京と哈爾濱は人種・文化の両面で漢族の優位が強い。東亜「4小龍」の半分の囲碁未発達も英語重視**，乃至中国語教育の抑制（高度成長期の新嘉坡）**と関連する。**

2001年に**甘粛出身棋士第1号**と成った張立（1987～　）は「春風不度玉門関」を裏付ける様に，その**「鬼門関」以東**300㌔の玉門市（北緯40°17'・東経97°02'）の人である。大慶より歴史が長い**玉門油田**の採掘労働者葛玉宏（1971～　）の手解きで入門し，入段後2007年（三→四段）全国個人戦で優勝し11年に六段に進んだ。非専業5段の葛は1999年に囲碁師範に転身し，**北京で開業した道場**の受講者は翌2009年の全国入段者20人中14人も占めた。

張立は9歳時に故郷を離れて**天津で研鑽を重ね**，葛玉宏も**蘭州・西安での師範実習を経て北京と各地で事業を展開した**。彼の道場にも通った事が有る李欽誠は6歳で北京の呉肇毅囲碁道場に入り，翌2005年に内弟子と成り09年に入段した。唐韋星も2000年（7歳）に北京の聶衛平道場に入り6年後に入段し，芈昱廷も06年に北京の馬暁春道場に入り翌年に11歳で入段したので，**棋士候補生も棋士も出身地より修行地や在勤地が重要**である。

2005年に首都に約400人の棋士採用受験者が集まり，15年に最多の北京・杭州の合計でも230人に減ったが，**当代「2都物語」の「北高南低」と「碁郷」省都の擡頭**を感じる。建国後の北京は上海から文教機関等を多く吸い取って**多寡を逆転**させたが，中国棋院設立後の**「碁都」も北京に移り全国を覆う同心円の中点を為す**。東部3直轄市中の天津は張立の巣立ちの地と為ったが，**文化・囲碁力が高いのに河北と共に地元の九段は育っていない**。

今の最上級者3人中の劉星（1984～　）は2004年の七段昇進後，06・07年阿含・桐山杯日中決戦で張栩碁聖・名人を破り，08年に富士通杯4位・応氏杯4強進出を果したが，17日後（12.27）に生れた牛雨田・8歳下の孫騰宇と共に昇進が無い。2008年全国個人戦優勝・四段昇進の孫は牛の七段昇進と同じ09年に，阿含・桐山杯日中決勝で羽根直樹本因坊（1976～　，02年九段）を倒し七段に特進したが，**頂上入りの至難**で10年以上踏み止まっている。

孫騰宇は李亜春（1961～　，河南鄭州出身，93年七段）に教わった後11歳時に聶衛平道場に行き，劉星も8歳時の北京修行中に呉清源との出会いで進路が決った。偶々彼の碁を傍で長らく観た巨星は母親から囲碁留学の当否を訊かれ，この程度の子は日本に大勢居り逸材には程遠いと答えた。凡才の判定で彼は天賦が無いと自覚し先進国へ行く願望も増々涌かなかったが，5歳年上の**蘇耀国と同じ道を歩むなら日本で九段に成る可能性**も有ろう。

張栩は斬新な「黒洞」布石の共同開発者**蘇耀国の溢れる才能**に驚いたが，**劉星も奔放な着手と流麗な文筆で碁界随一の才子**と目される。自己最高の序列3位（2009.8～11一括）の20年後の同時期（月毎）も38～39位に踏ん張り，王晨星（1991～　，遼寧撫順市［北緯41°52'・東経123°54'］出身，12年五段）の77→70位（女性2→1位）と共に，100位内の唯一の夫婦（16年に結婚）であるが，才覚・実力の割に段位が伸びない状況は**活躍の場の重要性**を思わせる。

蘇耀国は2007年の本因坊戦挑戦者決定戦で依田紀基に負けたが，胡耀宇（1982～　）は同

年 LG 杯決勝で周俊勲に惜(せき)敗した後 05 年昇進の八段の儘である。首爾(ソウル)で三番碁を観戦する大陸の報道陣は周を本土修行経験が有る同胞(ほう)と見做し，上海（胡の生地）対台湾の国内戦の様に気楽に眺(なが)め緊張感が無かった。現に**周や台湾棋院隊(チーム)は中国囲棋乙(B)・丙(C)級聯賽(リーグ)に出場したが**，海峡両岸を合せて見れば**台湾勢の充実は棋士・碁界の成功方程式の一端を窺わせる。**

胡耀宇・劉星の昇進中断は昇段戦崩壊に遭い制度改革時に**黄金期が過ぎた不運**も有るが，在日台湾勢は林海峰の 52・59 歳時の碁聖位奪(だっ)取・名人戦挑戦や王立誠の 46 歳時の十段 4 連覇，**中・韓棋士に多い「33 歳の壁」**にぶつかった張栩の 38 歳時の名人復位の様に，**最盛期が長く再盛期**（造語）**も訪れる。大陸の一流陣と共通する**点には，**桁(けた)違いの高水準の強盛国・地域で高手の指導を受け，更に強豪の競合に身を置いて芸を磨(みが)き力を伸ばす**事が有る。

日本治下の伝播(ぱ)や国民党政権の強化が無ければ，台湾は 2 番目に大きい島の海南と同じ囲碁後進の儘であろう。**大陸を先んじた最東部「先富」地域の在籍・在日棋士を含む中国出身者の九段**は，**上海 11，台湾**（在日）・河南各 7，**広東・台湾**（域内）**各 5**，浙江 4，北京 3，四川・江蘇・黒龍江・山西・遼寧・湖北各 2，**福建**・湖南・重慶・雲南・山東・陝西・貴州・江西・吉林各 1 に為るが，**東亜「金三角」の視座から見直せば新しい発見**が有る。

（夏　剛，立命館大学国際関係学部教授）
（夏　冰，京都囲碁道場師範）

围棋之源——天授的智斗游戏（二）

连载第 1 回的后续章节即将付印前，因新型冠状病毒所致图书馆休业而影响若干最终确认，不得不延至社会生活重归正常，而变通地提前发表下一部分。

本部分首先着眼于中国、日本古今 13 处实在或传说中的首都位于北纬 35±1 度附近这一特异现象，指出数千年来两国先人不约而同的选址意味着其间或有“王气”旺盛的“龙脉”。

笔者参照“黑河—腾冲线”的地理分布法，在地图上用直线连接东京—首尔—新加坡 3 都，揭示含战后东亚高速发展的“升龙”日本、“四小龙”（韩国、台湾、香港、新加坡）及“巨龙”中国内首富地区的东亚顶级富强“金三角”，亦即围棋列强国家、地区集中的天授“世界围棋兴盛特区”。

进而分析 20 世纪中国一流围棋手的故乡、原籍、所在地的大数据，在印证古来“南高北低”传统的同时，发现最东侧“先富”区域和北纬 30±1 度多的“（黄）金（地）带”多出高手，由此推论围棋繁荣和经济、社会、文化发达成正比的规律。

（夏　刚，立命馆大学国际关系学院教授）
（夏　冰，京都围棋道场教师）